

ニチジョウサハンジ11

～日常のあれこれを徒然なるままに～



4月1日
創刊!

今月のおすすめ

定価(本体0円+税)

目次

順番／タイトル

- 1 目次
- 2 まえがき
- 3 今日で2010年とさよなら。
- 4 さあ～2011年がスタートしました～♪
- 5 書き初めしてみない？みんなも♪
- 6 本当の優しさの前提には「力」が必要
- 7 二者択一を迫られたとき
- 8 執着心や猜疑心
- 9 一人の時間をつくる大切さ
- 10 オレってなんだろう？
- 11 五感を総動員して相手のことを察する
- 12 はじめてのこと・・・
- 13 ワンピースは人生訓が詰まった教科書である
- 14 今から振り返ればほんの一時期（1994年～1997年、2004年～2009年）に過ぎなかったかもしれませんが・・・
- 15 ブログ地獄からの脱却！？
- 16 街の書店の本の世界は、あまりにも狭い領域のまま本棚が展開されてきています。
- 17 そういえば、今年の標語は「思わず夢中になりました」だったかな？
- 18 「読む」ということに関すること・・・
- 19 人にとって、“読書”とはいったい何なのだろうか？
- 20 中断を活かすとは？
- 21 表意文字である漢字などを除いて、文字そのものは無味乾燥なものです。
- 22 読書法いろいろ
- 23 そもそもマネジメントの基本的なクライテリア（評価基準）は何であろうか？
- 24 子どもに読書を薦める理想的な方法は？
- 25 読書について
- 26 本棚
- 27 磨く
- 28 文章から読者の五感に訴える表現法
- 29 字の形が似ていて見違えることがある“字”一覧
- 30 岩波書店で40年本作りに携わった人が説く“本の正しい扱い方”
- 31 本の健康診断をする方法
- 32 読書と記憶と知層
- 33 人を助けるとはどういうことか？

34 ひとのちから

35 判断に必要な情報はいつも不足している

36 今しかできないことを選んで。

37 自分の心に素直に、決断をためらわないで。

38 他の誰かではなく“自分の人生”を！

39 今持っているものの中で出来ることを。

40 未来に託して後悔しないために、今、変わる勇気を。

41 あなたを幸せにするのは最後はいつだってあなただ！

42 記憶

43 体験というのは、とても大事だと思う。

44 形のないものに誰が愛なんてつけたのだろう

45 変わっていいんだよ。

46 否応なく与えられた世界で人は何かの役を演じてる？

47 人は自分の過去とは別れることができない？

50 自分らしく

51 もうすぐ春だし♪ポケットを空にして旅にでようよ♪

52 気ままに寄り道♪てくてく散歩の旅もイイねえ～♪

53 スズランの日

54 「どうして♪」という好奇心を持ち続けるのは、実はとても難しかったりします（汗）

55 何事も壊れるという前提があるから、そこがスタート！

56 本物のポジティブシンキングとは、強烈な自己否定によるものだ！

57 TVドラマ『ハゲタカ』と『リーガル・ハイ』の共通性

58 本当に大切なものは目には見えない

59 アルバム『夢供養』から「風の篝火(かがりび)」

60 アルバム『夢供養』から「療養所（サナトリウム）」

61 アルバム『夢供養』から「まほろば」

62 アルバム『青春映画が好きだった』から「君はレースの途中のランナー」

63 【 関連書籍 】

まえがき

人は、どんなときも言葉を探しながら、生きているのだと思います。

幸せなときも、ふしあわせなときも。

伝えたいときも、伝わらないときも。

それから伝わらない人にも、伝えられない人にも。

だから、言葉は大切に、探しあてた言葉は、心を支えてくれるものになる、のかもしれない。

だからこそ、ていねいに言葉をえらぶ。

ていねいに言葉を書く。

ていねいに言葉を伝える。

言葉はすべてひとつにつながっていて、わたしにもどってくるから・・・。

生きかた、そのものという感じがします。

言葉をえらぶ」ということは、仕事でも、プライベートでも大事なことですよね。

とても近い間柄であればなおのこと、顔の見えない距離の人であればさらにいっそう気をつけて使いたいと、いつも思います。

言葉はその人から離れた瞬間、別の響きや感情を持つことがあって、誰かを幸せにしたり、その一方で哀しませてしまったり。

だからこそ、ていねいに、相手の心を思いながら使うことが大切。

結局、それが丁寧に生きることにつながるのかな？、なんてことを、ふと思いました。

そして、最近。

言葉をえらびながら書いたエッセーの言葉たちが実は、元気や刺激を分けてくれるたくさんの友人たちと同じ存在であるんだってことに、とても感謝しているわたしです。

そんな言葉たちは、ちょっと元気がないとき、何か落ち込言葉ひとつの違いだけど、言葉ひとつで、心の在り方は、ずいぶんと違ったものになるから不思議ですね。

ちょっと元気がないとき、何か落ち込むことがあったとき。

きっと、あなたの心を励ましてくれると想います。

今日で2010年とさよなら。

今年一年、何か成し遂げたなって思うことありますか？

何かを思いついたとき。

やりたいことがあるとき。

それが実現可能か不可能か、私は、あまり深く考えたりしないようにしています。

できないと思ったら、もうその時点で、できなくなるような気がするから。

できない理由を考えるより、何ができるのか？、何ならできそうか？

そんなことを考えたほうが、より現実的だし、楽しい気持ちでいられます♪

また、あれをしよう、これをしようと思える何かがあれば、人は幸福でいられると思うんだよね。

だって、コントラストのある人生の方が断然楽しいから♪

もちろん、できることを進める速さは人それぞれで良いと思うんですよね（笑）

同じ人でも、そのときの心の状態や状況によって変わるものでしょ。

ゆっくり歩いてもいいし、ときに、全力で走ることだってあります。

今年一年は、みなさんにとって、ゆっくり歩いてこれた一年でしたか？

せれとも全力疾走で過ぎ去った一年だったでしょうか？

ただ、どんな速さでも。

大切なのは、できない言い訳を考えないことだと思うんですよね（汗）

人生に必要なのは、悩むことではなく、考えること。

誰もが知っているつもりの物事を、正しく考えることの大切さを忘れないでほしいですね。

世に溢れる思い込みを見抜ければ、もっと自由に生きられると思います。

そうそう、将来なんてものは、実は、どこにも存在していない。

現在、幸福である以外に、幸福であることはあり得ないってこと。

だから、みんな、こんな病気を持ってみてはいかがでしょう？

私は持っています（ニヤリ）

止まってしまうと死んでしまう病です（笑）

できることを、まず一つ。

それから、もう一つ。

そうして、あきらめないで、積み重ねてゆくことが大切なのだと思います。

上質な時間をいつも持っていられるためにも、どんな状況でもけっしてブレない考えを携えて、いつも変わらずに、てのひらにあるもの。

そんなものたちを、ちゃんと感じられる自分でいたいですね。

「ありがとう」って思う気持ちといっしょに。

そうそう、「うれしい」と「ありがとう」は、なかよし言葉でしょ。

よく似た意味の言葉だからいっしょに使えば、二倍うれしくなるって思いませんか？（笑）

感謝して、感謝してもらって、また感謝して。

そんなふうに住らせたなら、すごくうれしいと思います。

楽しいこと、わくわくすること。

淋しいこと、やるせないこと。

心のなかには毎日、いろんな思いがたまってゆくけれど、「よい」気持ちも、「わるい」気持ちも、その思いに向き合うことが、ほんとうの自分を知ること。

大切なのは、本心から目を逸らさないことだと思う。

そう、池田晶子も言っていたけど、格差とは、社会のうちに存在するのではなくて、その人の心の内に存在するものなのではないでしょうか。

それでは、今年1年、支えてくれた人たちに心からのありがとうを！

そんな感謝の気持ちを込めて、この曲をプレゼントしたいと思います♪

いきものがかりで「じょいふる」聴いてください♪

さあ～2011年がスタートしました～♪

あけましておめでとうございます。

今年、一年、みなさんは、どんな年にしたいですか？

私は、今年一年、時間にこだわって過ごして活きたいと思っています。

忙しいの「忙」という字は、心を亡くす、と書きます。

時間に追われる生活を続けていると、どんどん心が失われていくわけですね。

それは言い換えれば時間に負けてしまっているということで、どうしたらそうならない人生をおくることができるのか、最近よく考えるんです。

時間を効率的に使おうとするあまり、いまの日本人は意欲的になりすぎてはいないか？

気持ちを豊かにする時間をいかに作れるか、そこに本来の人間らしい生き方のヒントがあると思います。

時簡にとらわれないこと。

それこそが、いまの時代に人間として、もっとも豊かだと感じられる生き方ではないかと私は思っています。

例えば、ただ純粹に、好きな事をする時間を楽しんでいる。

そういう、自分自身の持っている心のゆとりやおおらかさみたいな空気が周囲に波及して、誰もがやわらかな気持ちでいられる。

いまの時間は機会が刻む速度に合わせている時間だけれど、それを人間本位にしようと思えば、できないことはない。

自分の意志で時間をコントロールして時間に勝つことは、きっとできるはずです。

周りの雑音に一切惑わされることなく、しっかり自分の時間を生きている人になればと思っています。

太陽とともに目覚めて働き、日が沈んだら身体を休める。

そんな、人間としてごく自然な生活をしていた江戸時代の人々。

そう、江戸の時代にも、現代とはまったく違う時の流れがあったんですね。

江戸の時間の測り方は”不定時法”といって、日の出と日の入りの時間を基準にして1日を12刻に分けたものでした。

対して現代に生きる私たちは、昼と夜の境がどんどんなくなって、24時間フル回転の生活をおくっています。

世の中が便利になってきた分、じつは人間は、少しもラクになっていないのではないのでしょうか。

昔なら出張で1泊できていた地域も交通機関の発達でほとんどが日帰りになり、パソコンや携帯電話の登場で、夜中でも朝でも連絡をメールで送ることができるようになりました。

だから、夜中でも朝でも働き続け、また、コミュニケーションが表層的に交わされる。

そんな具合に、どんどん時間を取られて余裕がなくなっていると思います。

じつは私もこの歳になって、考えてみると、あとどれくらいの時間が自分に残されているのかということ、すごく考えるようになってきました。

そうすると、1分1秒ものすごく貴重で、その貴重な時間を気持ち良く過ごしていきたいと思うから、無理をしてイヤな事をしたくないなと、思うようになるわけですね（笑）

この時間をこんなふうに過ごしたくはないという具合に、ある種の価値を時間で換算するようになってきました。

いまの時代だからこそ、時間に振り回されるのではなく、自分のほうから時間を作り出し、自由自在に時間を操っていけるような、そんな生活ができたらいいなと思っています。

かくいう私自身も、読書のみならず、音楽鑑賞、映画鑑賞、観劇などなど、忙しい毎日の生活の中でしっかり切り替える時間を作り出すことに、今年も注力したいなと考えています（笑）

悲しいことに、気がつくとも結局いつも時間に追われてしまっているというのが現実だから・・・。

だから、心して、どんなに仕事が忙しくなってもできるだけ自分の時間を作るようにしているんだよね。

前向きに生きることは、決して悪いことだとは思わないけれど、いまの日本人はあまりにも意欲的になりすぎていて、そのためにビジーになっている様な気がします。

負けまいと気負いすぎているようにも感じます。

まるで世の中全体があきらめることを忘れたみたいに・・・。

そういう底なしの欲望というものが、一方でものすごく人を疲れさせている気がします。

そもそも日本人にはそんなアグレッシブな生き方は向いていない。

だから、あちこちで無理が出てきているんだと思うんです。

”月はくまなきをのみ見るものかは”・・・と「徒然草」にもあるように、昔から日本人は、ちょっと欠けているような、不完全な美を愛してきました。

そういう風流を愛する心が日本人の上質だったはずなのに、それがここ、2、30年くらいで一気になくなってしまった気がします。

いい意味で”身の程を知る”ということが、なくなってきました。

だからこそ、時間に翻弄されて押しつぶされるのではなく、ちょっと立ち止まって我が身を見つめ直し、自分なりの時間を自由に操る。

これからの時代、そういう生き方ができるかできないかが、豊かな人生をおくるための鍵になるかもしれないと、感じています。

そのためにも、他人の基準にふりまわされて、豊かさを追い求めるほど、質からかけ離れていく。

物があふれる今の時代だからこそ、自分自身の基準で「ほどほど」を知る知恵を得て、ある意味、怖いものなしの男でいたいのが、今年目標ですかね（笑）

書き初めしてみない？みんなも♪

年が明けて初めて書や絵を書く行事のことだけど、今年1年の決意をしるしてみようと思います。

文字にすると、意識が高まる↑↑かなと思い立ったので（笑）

人生の選択は心に答えがある。

自分にとって大事なものは、自分の直感を信じることであり、そしていい意味で我儘であること、
と言い切れると考えています。

我儘というのは、自分が生きるうえで絶対に譲れない信条や価値観を安易に犠牲にしない、と決意することです。

ただ、社会人になってから何も犠牲にしてこなかったことはないし、意に反する犠牲を教強要されることも多くありました。

ただ、そうはいつでも人間ですから時には壁にぶつかることもあります。

でも私の場合、プライベートでもビジネスでも誰かに相談することはまずありません。

自分で考えて、自分で判断する。

その時、一番大事にするのが自分の直感です。

人を見る場合でも、仕事を選ぶ時でも、人生で何か選択しなくてはならない時も、ファクターをつけて数学的に $a + b = c$ というのではなく、フィーリングを大事にしてきました。

だから、無理して、心が動かないことに合わせようとはしません。

嫌な事は嫌でいい。

そちらの方向へ行かなければいいだけのことですから。

その分、好きな事に対するハードルを少しずつ高くすることに注力したいと考えています。

いっぺんに高くするとダメになってしまいますが、少しずつ上げていって、どこまで記録を伸ばせるか、自分に対しての挑戦ですね（笑）

よく聞く”キャリア”という言葉は、もともとはフランス・プロバンス地方の「カラリア」という言葉が語源だそうです。

カラリアは「道」という意味。

今、昨年までの自分自身の道を振り返ってみると、非常に曲がりくねっていて、けっして真っ直ぐな道ではなかったことに気付かされます。

でも途中で知らない村に着いたり、時には公園で遊んだり、いろいろな人に出会ったりしながら、どんどん面白くなってきた事実があります。

大事なことは目の前の道を一步一步、楽しみながら歩いていくこと。

最も気をつけていきたいことは、仕事でもプライベートでもルーティンに陥らないようにすることです。

すると自分の想像を超えた直感と偶然が時を違わず交差する一枚の織物の様な人生の豊かさが築かれいくのではないかと、そう思っています。

何をするにしても、幸せと自分が感じられないなら何の意味があるのだろう、かをモットーに、この一年楽しんでいきたいと思っています（笑）

本当の優しさの前提には「力」が必要

やさしさという感じは「優」という漢字をあてます。

「優」とは「劣」の逆です。

つまり、優っている状態が「優しさ」なので。

優っている状態というのは、言い換えれば強いのです。

だから、本当の優しさの前提には「力」が必要なのです。

力があるからこそ、弱い者も庇うことが出来て、自分が正しく思うことでもあえて自分の言葉を呑み、相手に謝ったり、相手を立ててあげることが出来るのではないのでしょうか？

二者択一を迫られたとき

二者択一を迫られたとき、考えて「正しい事」と思うことよりも、自分が「楽しい」「好き」と思える道を選んでください。

「正しい事」というのは、時代、国、人などの価値観で不変のものではありません。

自分が「楽しい」「好き」だと思えることは、多少状況が変わろうと自分の本質であるため変わりません。

それに「自分がしたい」と思えることさえすれば、そのことがもし上手くいかなく過去になっても後悔はしません。

なぜなら「したい」と思う行動をとったという満足感が残るからです。

もし仮に「ああすればよかった」という道を選べば、失敗しなかったとしても「行動しなかった」という後悔の念はおそらく消すことは出来ないでしょう。

「倒れるときは前のめり」

これが私のポリシーです。

たとえ失敗して躓き、倒れる場合でも進む方向に倒れる。

そうすれば倒れてからでも這って進むことが出来るかもしれない。

失敗を恐れてカッコつけ気取っている人間よりも、全身恐怖に震えながらも「それでも俺はこっちへ行きたいねん」と恐る恐る一步を踏み出す人間が私は好きです。

そして私自身も、いつもそう在りたいと思っています。

最後にこの言葉を添えておきます。

「成功の確率を倍にしたければ、失敗の確率も倍にすることだ。」 — トム・ワトソン — (プロゴルファー)

執着心や猜疑心

執着心や猜疑心というのは、誰の心の中にも潜んでいます。

それを上手に宥められるか、その感情に突き動かされるかの違いです。

その感情に振りまわされる人は、気持ちに余裕がない人です。

またこちらも気持ちに余裕がないと、そういう人に対する時に自分も巻き込まれて振りまわされてしまう。

そして諍いになったりします。

どこにでもよく見かけられるシーンです。

目に見える例えだと、あなたが電車に乗っていると想像してください。

車内は空いています。

そしてあなたの知らない人が駅から乗りこんで来ます。

空いているにもかかわらず、その人はあなたに密着するように座ってきたらどう感じますか？

多くの方は不快に感じます。

ムッとします。

目に見える距離と同じく、人は心の中にもこの距離感を持っているのです。個人差はありますが。

人間関係を上手に保つ人は、この距離感の取り方が巧みです。

その人が入ってきたら不快に思う距離感を見極めています。

いくら親しい間柄とて、この距離感があります。

それに執着心の人一倍強い人、猜疑心が以上に強い人というのはいくらこちらが心をオープンに

したからといって、それで納得するものではないのです。

これがやっかいだ。

どんなにこちらが嘘を言っていない、と言っても心のどこかでは常にその逆を案じているのです。

早い話が、出来ることならこういうタイプの人とはあまり関わらないことをお勧めします。

心理学の用語では、これは「ドラマを演じる」と言われる現象なのです。

常にその役割を持った人を演じようとする心理です。

このドラマはお互いが持つ、エネルギーの奪い合いとなります。

それは演じているお互いの心をひどく疲れさせます。

多くの人々の心の疲れは、このような人間関係のドラマの中で繰り広げられるエネルギーの奪い合いで起きるのです。

一人の時間をつくる大切さ

本というのは本当に不思議なもので、読めないときはパツタリと読めなくなります。

読みたい気持ちはあるものの、ぜんぜん頭に入ってこなかったり、ページばかり進んでしまったり。

また、調子のいいときにはすらすら感情移入ができて、どんだんのめり込んだりします。

私のように活字中毒の場合は、調子よく読めているときがとにかくチャンスなのです。

読んでる本にとってもイイことが書いてあると、とっても嬉しい気分になります♪

私のように思い込みの激しい人間は、意外と単純です！

それだけでイイ気分になれるから（笑）

話は少し変わりますが、読書でも編み物でも何でもいいのですが、一人の時間をつくるというのは心にとって大切なことです。

心を落ち着けていられることで、元気を取り戻し、ふたたび集中してたっぷり楽しむ。

心身にあらたな活力を与えるための、孤独のパワーなんでしょうね。

皆さんたしかにお忙しいことでしょう。

でも、定期的に沈黙する時間を見つけて一人の時間を作ることが、本来の自分を取り戻す近道ですよ。

オレってなんだろう？

「信じるしかない。自分の培ってきた自分のものさし=measureを。」

どんな自分、育ててますか？

努力しているかしていないか。

自分が一番しっています。

またあとで、またあとで、つもりつもって今の自分。

これでいいのか、これでいいのか、そうは思うが何もしてない。

そう、「・・・たら」はない。

今の自分が自分のすべて！

いまの為の今。

未来の為の今。

その両方が今。

すぐに答えの出せない時もありますよ、あせらずに（笑）

まちがいに気づいたら、直せばいい！

選べる道はたくさんあるけど、歩ける道はひとつだけ。

自分が心に決めたのなら、自分で守り続けなきゃ。

日々のくりかえし。

これに飽きた人が負け。

だから、ほしいのは、自分に負けない心です！

きっちりとおわりまで、手をぬかず、心をかえず、今日も歩いていきますかね♪

五感を総動員して相手のことを察する

会社の上司や同僚を問わず、コミュニケーションの現場では相手の求めていることを察する力が、何より大切だと思っています。

それをきちんと察して、相手を正しく理解できて、相手から「よく分かってくれたわね。そうなのよ」って言ってもらえたときが一番うれしいですね。

あえて言葉にして交わさないこともあるけれど、それでも相手が考えていること、感じていることをどれだけ理解できるか、心で共感できるか。

そのために自分のセンサーをいつも、フルに研ぎ澄まさせています。

観察力も注意力も総動員する感じですね。

五感をすべて使わないと言葉にならない思いまでを察したりはできませんから。

だから私のコミュニケーションの極意は、とにかく察することかな。

そのためには相手にうまくしゃべってもらうだけじゃなくて、きめ細かく観察するようにしていますね。

例えば今日の言葉遣いは昨日と少し違うんじゃないかと比べてみたり、声のトーンの微妙な変化に注意して耳を傾けてみたり。

そうやって日々を送っていれば、電話をかけているときの声からでも、その人の気持ちの揺れを感じたりできるようになるものですよ。

はじめてのこと・・・

はじめてしたことを思い出してみようとしたが、なかなか記憶が蘇ってきませんね～

それだけ、長く生きてきたからかな。

人は誰もが自分の中にそれぞれの始まりを持っているんだけど、ね。

シンプルであたりまえのことを私たちは、ときどき忘れてしまうけれど、私たちは、ときどき思い出さなくちゃいけないんじゃないかなって。

どんな思いにもまっすぐ向き合うことが難しくなってきたから・・・。

今を見つめるということの大切さとともに、はじめましての頃を思い出して、しっかりと命の時間の長さだけ前を向いて歩いてゆけたらと思いました。

みなさんは、はじめてしたことって今でも覚えていますか？

はじめて見上げた空を！

はじめて感じた恋を！

はじめて流した涙を！

はじめて出来た友達！

はじめて交わした約束！

はじめて喧嘩をした事！

はじめて握ったその手を！

はじめて愛した人を！

はじめて選んだ別れを！

はじめて走った校庭を！

はじめて泳いだ海を！

はじめて浴びた太陽！

はじめてついたウソも！

はじめて知った痛みも！

はじめて触れた優しさも！

ワンピースは人生訓が詰まった教科書である！

数々の記録を更新し、いまや国民的漫画となっているワンピースですが、男の子を育てるバイブルかとも思うな。

ドラゴンボールと一緒にですかね。

こういうストレートな少年漫画、好きです。

最新刊まで全制覇していますが、多くの経営者がオススメするマンガであり、人生訓、組織論、夢・目標の本だとのこと。

確かに人は強くなるためにどんな考え方を持たなければならないのか、漫画ながら教えられる部分が数多くあって、人生の教科書としても読み解くことができるのかもしれないね。

まだ読んでいない人は、今すぐ大人買いを！

さて、ここで好きな名言を思いつくままピックアップしてみました。

「支配なんかしねェよ この海で一番自由な奴が海賊王だ！！！」～ 51巻 第507話”黄猿上陸”より～

レイリーの”この海を支配できるか？”という問いかけに対しルフィが言った一言。

「剣士として最強を目指すと決めた時から命なんてとうに捨ててる このおれをバカと呼んでいいのはそれを決めたおれだけだ」～ 6巻 第49話”嵐”より～

鷹の目への挑戦をサンジにバカにされたゾロが言った一言。

みなさんのお気に入りの麦わらの一味の名言は何ですか？

「おれは助けてもらわねェと生きていけねェ自信がある!!!」（ルフィ 巻十）

「いいかい 優しいだけじゃ人は救えないんだ!!! 人の命を救いたきゃそれなりの知識と医術を身につけな!!! 腕がなけりゃ 誰一人救えないんだよ!!!!」（Dr.くれは 巻十六）

「過去を無きものになど誰にもできはしない!!!この戦争の上に立ち!!! 生きてみせよ!!!!

」 (アラバスタ国王 卷二十三)

「笑われていこうじゃねエか 高みを目指せば 出す拳の見つからねエケンカもあるもんだ!!!!」 (卷二十四)

「“女のウソ”は許すのが男だ」 (サンジ 卷三十八)

「海賊なら!!! 信じるものはてめエで決めろォ!!!!」 (白ひげ 卷五十八)

...

今から振り返ればほんの一時期（1994年～1997年、2004年～2009年）に過ぎなかったかもしれませんが・・・

専門書、新書や実用書ばかり大量に読み漁っていた時期がありました。

この間は、一年半の総合基礎技術研修に行っていたこともあり、本当にたくさんの専門書（通信工学・電子工学・半導体工学・計測工学・制御工学・信号処理・計算機工学・材料科学・伝熱工学・熱力学などなど）、新書や実用書（技術書やビジネス書）を読み、よく勉強したと思います。

学んだことは多いですが、必ずしも幸せな読書体験ばかりではありませんでした。

確実に、知識が身につくし、たいていは仕事や人間関係など実生活の役に立ちます。

論理展開を予測しながら読むなどの工夫をすれば、考える力や書く力も身につきます。

ただ、ある分野の専門家を志す人は、本の読み方も変える必要があります。

結論からいえば、自分の仕事に必要な文献だけではなく、技術者として生きていくために読まなければならない文献群や雑誌類があります。

その範囲や分量は技術分野や境界学問の範囲によって程度の差があるので、試行錯誤する必要があります。

ブログ地獄からの脱却！？

たかがブログ。

されどブログ。

たかが1アクセス、されど1アクセス。

たかが1円、されど1円。

しつこくてすみません。

ブログは実際には、わりとお手軽に承認欲求や自己顕示欲を満たすことができるツールだと言われています。

確かに、そうだな~と思うところも、私もそうですが、そしてみなさんもお気づきになられているとは思いますが、たぶんブログを書く動機が何であれ、人間である以上、承認欲求や自己顕示欲がその背景に少なからずあることを否定はできないと思います。

それらは人間の根源的な欲求なんですよ。

また、バーナード・ショウも”As long as I have a want, I have a reason for living. Satisfaction is death.”と語っていました。

私たちが何らかの欲求を満たすために日々働き、生きているということは、ほとんど確実な事柄だとも言えます。

着るものや、食べるものや、住む場所や、友人とのつながりや、自分の成長や能力の活用などを、私たちは強く求め、日々働き、今を生きています。

上で引用したバーナード・ショウの言葉は、それを端的に表したものであり、欲求がひとつでもあれば、その欲求は生きる理由になるということ。

欲求のレベルは、人それぞれですが、単に生命を維持するためだけの生理的な欲求もあれば、より高次の、例えば、成長したい、自分の能力を活用したい、という欲求もあると考えられます。

ただ、いずれにせよ、どこかの段階で満足してしまえば、それは死んでいるのと同じなんだよ、

気をつけな！とバーナード・ショウは言いたいのでしょう。

また、マズローは、こんなことを言っていました。

「この上ない安らぎを得たいのであれば、音楽家は曲を作り、画家は絵を描き、詩人は詩を詠む必要がある。人間は自分がそうありうる状態を目指さずにはいられないのだ。こうした欲求を自己実現の欲求と呼ぶことができよう……。それは自己充足への欲求、すなわち自己の可能性を顕在化させようという欲求、なりうる自己になろうとする欲求である。

この例を、ブログを書かれている方に当て嵌めてみると、何のためにブログを書き、そして、何を目指しているのか？

それは、ブログを書く行為自体が、必ずしも自分はそうではないんだけど、そうありたいと願う自分自身になるために行われていて、前述の人間の根源的な欲求を満足したいと自然（無意識）に行っている行為でもあり、つまり、自分のブログを読んでもくれる人たちによって存在することができ、そうした人たちが存在すること自体が自分にとっての最大の報酬なんじゃないかって気もします。

だからこそ、個人のウェブページに限らず、ちょっと汚い言い方で失礼致しますが、インターネット上の情報は「便所の落書き」だと揶揄されて久しいけど、積極的であれ消極的であれ、それらの存在を肯定しているからこそブログの記事を自然に書いて、更新してこれたのでしょうね。

ブログを書くというプロセスは多くの場合、承認欲求や自己顕示欲を肯定済みであるがゆえに自分のキモさ（あまりにもあからさまに欲求の存在をウェブというオープンな場に公開するという行為。）とどう向き合うかなんていちいち考える必要がないぐらい、自然な行いではないかという意見もありますから、あまり難しく考えず、井戸端会議的なおしゃべりでもOKだと思うし、Twitterの真似してつぶやいたりしてもいいだろうし、まあ、本当に「便所の落書き」か否かは、読む方が決めることであって、私の知ったこっちゃ無いなんて・・・言いませんけど、ね。

考えてみれば、通常の世界生活においても、承認欲求や自己顕示欲というのはモチベーションの源として、自分を向上させるための燃料にもなりうるものであるし、こうした「認められたい」という欲求が正常に働いてはじめて、自己の向上や成長が可能になるから、その一環でブログを続けていく意味はあると思っています。

ただ、意に反するコメント地獄や更新ストレス地獄もあると思います。

結局・・・ブログにとって、大切な事は3つ！

ブログを楽しむ事。

続ける事。

輪を広げる事。

なんじゃないでしょうか？

街の書店の本の世界は、あまりにも狭い領域のまま本棚が展開されてきています。

長く過ごすためには、部屋に入ったときに窮屈さを感じさせない空間づくりが重要です。

狭い空間で長く過ごしていると、社会生活自分の家を「心地よくしたい」「きれいにしたい」と心のどこかで思っている人はたくさんいるのに、それを実行に移す人は必ずしも多くありません。

忙しくて他にやらなければならないことがいっぱいあるし……。

狭いからと言い訳して、何にも工夫しない部屋で過ごす毎日と、狭いかもしれないけど、現状で家具の置き方を工夫したり、家具を選ぶときにもじっくり考えてつくりあげた空間で過ごす日々。

どちらが快適で、心豊かに過ごせるか……。

答えは明らかですね。

それとともに「読書する社会」というものも見えにくいままになっていると感じてきました。

編集工学研究所の松岡正剛が言っていますが、本の世界では読前・読中・読後はつながっていて、本の世界はもっと知のファッションのように、知のスポーツのように、知のスーパーマーケットのようになるはずだって意見には、賛同できますね。

ただ、そのようになるためには、まずは「本の見せ方」「本の接し方」「本の読み方」をさまざまに変容させる必要があるのでしょうか、ね。

たとえば、「本を贈る文化」や「共読する文化」や「他人の蔵書が覗ける文化」をはぐくむ用意が必要で、松岡正剛は、「松丸本舗」のオープンとともに、松岡と編集工学研究所では、インターネット上に新しい「ブックウェア・ポータル」として「ISIS本座」（イシスほんざ）を開始しています。

「ISIS本座」は「松丸本舗」と連動しつつ、さらに多様な「読前・読中・読後」のモードとコミュニケーションが交差する「共読メディア」をめざしているそうなので、一度、覗いてみてはいかがでしょうか。

そういえば、今年の標語は「思わず夢中になりました」だったかな？

読書の面白さ、醍醐味は、まさに“思わず夢中に”なってしまふことかもしれないね。

とはいえ、読書では勉強や仕事のために、夢中になれなくても読まなきゃいけないこともあります。

いろんな読み方があるだろうと思う。

話は変わりますが、ちょっと前の記事を読んでいたら、「読みさす」という言葉が出てきました。

「読み止す」と書きます。

「読み終わらずに、中止すること」という意味です。

そういわれれば、「読み流す」とか「読み違える」とか、「読み」の後にいろんな言葉がついて、「読む」ことのいろんな状態を表わすものがありましたよね。

ちょっと調べてみたら・・・

意外とたくさんあって、驚きました。

次のようなものがありましたよ。

読み上げる／読み漁（あさ）る／読み誤る／読み合わせる／読み入る／読み落とす／読み返す／
読み替える／読み掛ける／読み聞かせる／読み切る／読み下す／読みこなす／読み込む／読み過
ごす／読み捨てる／読み立てる／読み回（た）む／読み溜める／読み散らす／読み付ける／読み
解く／読み飛ばす／読み取る／読み慣（なら）ふ／読み馴れる／読み悪（にく）い／読み耽（
ふけ）る／読み破る／読み渡す

意味のわからないものは、辞書を引いて調べていただければと思いますが、いろんな「読む状態」があるものなんだから、改めて日本語の表現に驚きました。

そういえば「読書からはじまる」の中で長田弘は、言葉は平等なものだけでも、人と人を違えるのも言葉だと述べていました。

大事なのは言葉で自分を表現することだ、と誰もがそう思っているし、そう言われています。

言葉を人間の家来と見なせばそうですが、実際は違うんでしょうね。

問われるのは、言葉で自分をどうゆたかにできるか、ではなくて、自分は言葉をどうゆたかにできるか、なのでしょう。

言葉のゆたかさというのは、たくさんの言いまわしをあれこれ揃えることではありません。

美辞麗句は言葉のゆたかさを意味しません。

そうではなく、むしろ限られた言葉にどれだけ自分をゆたかに込められるかが、言葉にとっては重要なことなのだと思います。

人は良く分かり合えないとか、性格の不一致とかといって、相手とのコミュニケーションを閉ざしがちです。

必要なのはどういう言葉で、相手とのコミュニケーションを図っていたかなのかなってことが大切だと感じます。

言葉なんか毎日、好きなように、好きなだけ使っています。

全然、不自由していないと、そう思おうとしています。

しかしそのように思おうとしながら、本当はそうではないのではないかという不安があるのも事実です。

というのも、自分を表す言葉に不自由していないと感じているために、どういう言葉が自分に必要なのかということを、誰もが考えなくなったのかもしれないね。

自分がどういう言葉を使って、どういうことを話しているのかなどと考えないところに、自分を置いて話すことが当然のようになっているためです。

けれども、ふと見まわすと、どこにも自分という存在がなくなっています。

これからは、どんな言葉をどれだけきちんと使っているか、あるいはどれだけきちんと使えないでいるかが、それぞれを違えるとても大事なものになってゆくだろうと思います。

わたしたちは自分達の頭を、自分達が信じてもない言葉のがらくたで一杯にしてしまいかねない危うさを持っていることを忘れないでいたいですね。

言葉のゆたかさとは、どういう自分であるかを語ることができる、みんなおなじなかでお互いがどういう人間であるか、お互いにどういうふうに違っているかをすすんで語ることができる、そういうゆたかさにはほかなりません。

日常に普通にある言葉を、どのように使うか。

言葉は、それが全てだからです。

だとしたら、言葉というのは、使い方の問題です。

自分がどういう言葉をどう使うか、その言葉のなかに自分をどう表してゆくか、それができるか、できないかが、これからコミュニケーションを行う上で、いちばん重要な錘となってゆくのだと思います。

人にも器量があるように、言葉にも器量があって、言葉を使う人との結びつきで、ゆたかにもなり、貧しくもなってゆくのでしょうかね。

みながみな、おなじにもつ言葉をかけがえのない自分の言葉にできるものは、ひとつだけです。

自分は自分の言葉というものをどう結んでゆくかという言葉に向き合う態度こそが、心の方向を相手にちゃんと伝えられることに繋がっていくのかも知れませんね。

「読む」ということに関することで・・・

もうひとつ「音読」とか「多読」、「精読」などのように、下に「読（どく）」がつく熟語があることに気がつきました。

これも、いろんな読む状態を表わしていますよね。

これも調べてみると、次のようなものがありました。

愛読／（暗号）解読／一読／閲読／会（かい）読／回読／解読／訓読／講読／購読／誤読／再読
／細読／査読／色（しき）読／自読／熟読／誦（しょう）読／触読／心読／真読／晴耕雨読／速
読／卒読／素読／体読／代読／耽読／直読／通読／積読（積ん読）／点読／転読／顛（てん）読
／難読／拝読／背（はい）読／白読／判読／範読／繙（はん）読／必読／披読／復読／併読／奉
読／捧（ほう）読／味読／黙読／訳読／濫読（乱読）／略読／流（りゅう）読／輪読／連読／朗
読／和読

まったくねえ、いろんな読む状態というか、読み方があるものですよ。

人間は言葉をもつようになり、それを表わす文字をつくり出してきた証拠のような気もしてきます。

言葉は違いを表すものなんだろうなあ。

文字を持たない文化というか民族もあるようですが、それは例外といってもいいのかもしれませんがね。

文字で文章を綴り、それを本、といっても最初は石とか板などに一字一字書いていたのですが、紙や印刷術を発明して大量に本をつくれるようになったから、そこに書く言葉の表現方法も、いろいろ考えられて、言葉が生まれてきたんだらうけど、実は、私達、その言葉の中に生まれてきたとも言えますよね。

本がなければ、文化・文明は維持できないし、発展もない、と言えるかもしれません。

人は「文字を読む動物、本を読む（読書をする）動物」、つまり「読書する生き物」と言えるかもしれませんね。

人にとって、“読書”とはいったい何なのだろうか？

実は、前に書いた「読みさす」という言葉が出てきた新聞記事は、詩人の長田弘さんが書かれたものです。

「悦ばしい読書 自分の時間で読み継ぐ」と題されたもので、人にとっての読書というものの意味について書かれたものです。

その記事は、次のように始まっていました。

読書というのは、本を最初から最後まで読むこと、しっかり読みとおすこと、読み切ること、読みぬくこと、読み解くこと、なのだろうか。

そうではない、と思う。

むしろ、最初から最後まで読まなければ読んだことにならないと断じるくらい、読書というもののありようを不用意に歪めてしまうものはないのではないか、と思う。

本は、最初から最後まで読まれなければならないものでは、本当はなかったからである。

最初から最後まで読まれることをのぞんでいない。

そういう本が、本の世界にはけっして少なくないし、さっと読み飛ばせない、というより、さっと読み飛ばさせない、そういう本がある。

読み方しだい。

読み方によって生き生きとしてくるのも、つまらなくなるのも読書だ。

読みとおすのでなく、読みさす。

読み切るのでなく、読み余す。

読みぬくのでなく、読み継ぐ。

読み解くのではなく、読みとどめる。

そうして、開いたまま本を伏せて、あるいは閉じて積んで、自分の日々の時間のかたわらに置く。

そういう本のあり方、読み方をおのずからもとめる本があり、本というもっとも古い人間の文化のありようをもっともよく伝えてきたのは、そうしたけっして読み飛ばさせないような本の記憶だったと思う。

二千年のいのちを今もたもっている強靱な本のおおくがそうだ。

ギリシャやローマの哲学者の本や、論語などの古代中国の本、聖書にしても、

最初から最後まで読み飛ばせる本とは到底言えない。

どんなに引き込まれても、読み切れず、繰り返し読みさしてしまう。

それでいて、読みさしをくりかえすうちに、いつか気づくこともなく、その本の言葉が自分のなかに畳まれていて、一度も通読した覚えがないのに、いつのまにか全体を読んでいる。

というのです。

そして、

中断を楽しむことのできる本は間違いなくいい本だ

とっていました。

なるほどなあ～本を読むということは、その内容や考えを検索し、要約するというようなこととは違うのですね。

それは本によって、本というひとつの世界の作り方を学ぶということなのかもしれません。

中断を活かすとは？

詩人の長田弘さんが書かれた新聞記事には、また、「中断を活かす」という小見出しのあとに、こんなことも書いていました。

読書というのは、本を読むというだけのことではないのだ。

本を自分の日々のなかに置いて、自分にとって必要な本の置き場所をつくる、そういう日々のあり方をすすんでもちこたえてゆくというのが読書なのだ。

いつの世にも読書というのは、その人の人生のスタイルのことなのである。

そのことをはじめて強烈に意識したのは黒田清輝の『読書』（1891年）という絵だったといいます。

こんな絵だそうです。

パリ近くの小村で描かれたもので、鎧戸から差し込む日差しの明るい部屋で、娘が一人、黙って本を読んでいる。

娘は村の肉屋の娘で、左手に持った本のページを、いましも右手の指でめくろうとしている。

娘が手にもっている本は、もうよれよれの、すでに幾度となく読まれてきたと覚しき本だ。

何の本かはわからないが、描かれているのは、日々の生活の一部をなす、人の人生の一部をなす読書というもの、そのものの姿だった。

続けて、こんな文章で終わっている。

読書というものが失ってはいけないものが、『読書』という絵にはのこされている。

本を読む娘の目を見ればわかる。

文字を見つめることは、こんなにも人の眼差しを透明に、無私なものにするものなのかというおどろきだ。

はたして、私の本を読む目、文字を見つめる眼差しは透明だろうか、などと思ってしまったのでした。

表意文字である漢字などを除いて、文字そのものは無味乾燥なものです。

そんな文字で言葉、そして文章が綴られ、その文章のひとつのまとまりとして本ができ上がっています。

そんな文字の羅列である本を読んで、人が夢中になるというのは、考えてみると、とても不思議なことです、と思いませんか？

活字中毒を自認してますが、もし本がなかったら、この世に生きている甲斐がない、とまで思っていますよってのは、言い過ぎだけど。

いろんな読み方があっていいと思うし、どんな本でもいいと思うので、読書を楽しんでもらいたいと思います。

「積読（積ん読）」という言葉がありますが、これもひょっとすると読書に入るのではないか、と思っているんですけど・・・違うかな？

読書法いろいろ

単に読書といってもいろいろな読書法があります。

ちょっと調べてみた限りにおいても、以下の読み方がありました。

1. 黙読 . . . 声に出さずに読むこと。反対は音読。
2. 通読 . . . 始めから終わりまで読み通すこと。また、ひととおり目を通すこと。
3. 熟読 . . . 文章の意味をよく考えながらじっくり読むこと。精読と同じ意味合い。
4. 精読 . . . 細かいところまで、ていねいに読むこと。熟読と同じ意味合い。
5. 音読 . . . 声を出して文章を読むこと。反対は黙読。
6. 唇読 . . . 声に出さないで、くちびるで読むこと。
7. 速読 . . . 本などを普通よりも速く読むこと。
8. 適読 . . . 摘まみ読みこと。
9. 多読 . . . たくさん読むこと。
10. 乱読 . . . 手当たり次第に読むこと。
11. 斜め読み . . . 斜めに読むこと。
12. 飛ばし読み . . . 飛ばし読むこと。
13. 拾い読み . . . 文字を一字ずつたどって読むこと。読める文字だけを読むこと。

実に多くの読書法があるのがわかります。

ここ最近では、時間を効率的に使うことが可能な速読や、理解を増す読み方の音読などが増えてきています。

みんなもご自分の用途に合わせて読んでみてはいかがでしょうか？

私は、黙読が多いかな。

そもそもマネジメントの基本的なクライテリア（評価基準）は何であろうか？

企業であっても、如何なる組織であっても目的は何らかの課題の解決とすれば、最小限の人数と速度でその目的を達することができれば優秀なチームといえます。

そこに必要なのは、課題に対する情報収集＝リサーチ能力や、その分析能力、そしてそれに対する戦略と戦術の構築能力、そしてそのオペレーション能力といったところでしょうか。

それでは、何をマネジメントのテーマとしてあげたらいいのか？

そこで思い出されるのが「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX」の中で荒巻大輔通称”課長”が言った以下の言葉です。

『我々の間にチームプレイなどという都合のよい言い訳は存在せん。あるとすればスタンドプレーから生じるチームワークだけだ。』

例えば、メンバー各人が修羅場をくぐりぬけてきた極めて能力の高いプロフェッショナルの集合体であった場合、そのメンバー各人は、一匹狼としてやっていける自負をもつ“個”であるはず。

そして同時にそもそも集団で動くことを嫌う“孤”たちでもあります。

そういった能力は高いものの、協調性という言葉とは程遠いメンバーをどうマネジメントしていくのが、今の組織に求められているのかもかもしれません。

スタンドプレーの容認ということは言い換えれば、メンバーに対する全幅の信頼がなければ成立しないから・・・

その中でリーダーとなる人間は、人間的でウェットな情の部分は意識的に排除する必要性に迫られるのかなと思います。

ただ、部下との関係はどこか恋愛関係に似ていますね。

信頼＝リスペクトの対象となる能力、特長とエモーションがあって初めて成立し、それは相互補完の関係となっている場合が多いから。

子どもに読書を薦める理想的な方法は？

そういえば、なぜ大人は子どもに「ためになる本だから読みなさい」というのでしょうか？

子どもだってうんざりだろうなって思います。

大人が夢中になっておもしろがって読んでいるを、子どもが「何読んでいるの？」って聞く。

そこで大人が「読む？」って返すくらいが、子どもに読書を薦める理想的な方法じゅないかって気がするんだけどね。

子供以外にもそうかもしれないよね。

ツイツイ自分が良かったからと無理に薦めてしまうことがあります。

そうではなく、相手が興味を持ってから紹介するようにしたいものです。

読書について

書物とは自分自身の経験を処理し、自分自身の問題を解決するための道具であると言ったのは、清水幾太郎氏。

また、読書の究極目的は、知識を自己の生活に役立つ道具とすることであると言ったのは、桑原武夫氏。

ハマートン氏は、読書の技術とは、適当にうまくとばして読むことであると言ったなあ。

最後に、本を選ぶコツは、出てきてから一年とたたない本はけっして読まないようにと、マーソン氏は、忠告してくれていますが、読んじゃうよな～面白そうな本だと。

本棚

男の価値観は本棚に並べられた書籍によって決まる言い方は極論かもしれないけど、ある程度、その人となりが分かるかなって思います。

素敵な本棚があり、種類ともに充実した書籍のコレクションが才覚を形成し、尊敬するに値する人望を形成するのだろうと想像できるかな。

これまでにどのような本を選び読書をしてきたか、これが男の価値観に大きな影響を与えることは間違いない。

でも、経験と体験も重要なことには変わりはないけど、ね。

本棚は男の知的好奇心の宝の山ともいうべきか、生きていくうえでの美学が詰まっている場所だとは思いますが。

磨く

例えば、付合ってる人に浮気をされない方法は？

ん～相手を拘束せずに、常に自分を磨くことでしょうか。

相手が常に他と比べても、自分を選んで貰うように。

それがベストな方法だと思いますが、いかがでしょうか、みなさん。

今度何か突発的な事が起こった時、あなたが好きな人の行動と言動を少し注意して見てみて下さい。

余計好きになるか、嫌になってしまうか。

そして自分自身も常に磨くことをお忘れなく。

文章から読者の五感に訴える表現法

本は、基本的に文章や写真、画像、イラスト、図表といったものだけで作られます。

つまり、読者に“音”を感じてもらうことはできません。

したがって、本を書いている作家や著者は読者に対して視覚に入るものだけで表現しているということになります。

では、読者に臨場感ある“音”を連想させる手法はないのでしょうか？

それがあるんですね。

それは、擬音語（オノマトペ）を使うということです。

特に、食べることへの表現は重要な要素になります。

例えば、麺類を食べるときの音、ずるずるやずーずー、チュルチュルなどがそうです。

では、具体的に食にまつわる擬音語にはどんなものがあるのでしょうか。

ちよとご紹介したいと思います。

1. 煮立っている、沸騰しているなどが伝わる擬音語

ぐつぐつ、ことこと、ジュージュウ、ジュワジュワ

2. 野菜やカキ氷など「冷たいもの」が伝わる擬音語

ぱりぱり、しゃきっ、しゃりしゃり、ザクザク、ガリゴリ、ザラザラ、きんきん

3. 暖かさが伝わる擬音語

ほくほく、こんがり、かりかり、とろとろ、ぬくぬく、カリッカリッ、さくさく、ほっかほか、
、ホワホワ、ぐつぐつ

4. ねばっこさが伝わる擬音語

ぬるぬる、ねとねと、ねばねば、ネチャネチャ、ぐちゃぐちゃ、ぐちょぐちょ、ぎとぎと

5. 麺類などを食べる音が伝わる擬音語

ずるずる、ずーずー、チュルチュル、さらさら、つるつる

6. 食べていることが伝わる擬音語

もぐもぐ、もりもり、クチャクチャ、あんぐり、ぐちゃぐちゃ、ぐちょぐちょ、がつがつ、がりがり、くしゃくしゃ

7. 飲んでいることが伝わる擬音語

ごくごく、ごっくごっく、ごくりごくり、ごくん、ぐびぐび、ぶはー、がぼがぼ、くちゆくちゅ

8. 食感が伝わる擬音語

もちもち、パサパサ、ぷるぷる、ぼそぼそ、ぷちぷち、グシャグシャ、シットリ、こりこり、がちがち、ざくざく

9. 見た目を伝える擬音語

てかてか、ぴかぴか、ふわふわ、ぷるぷる

など日本語の食感表現の豊かさが理解できます。

冒頭で読者に“音”を感じてもらうことはできないと述べましたが、逆に言えば文字や文章には、音や映像にはない想像の喚起力があるということになります。

そうそう、「官能評価のためのテクスチャー用語リスト 食品機能研究領域 食品物性ユニット 早川 文代：食総研ニュース No.19 (2007)」によると、日本語には445語の食感を表す表現があるそうです。

字の形が似ていて見違えることがある“字”一覧

本には、字の形が似ているため見間違いやすいものが多く存在します。

特に、出版社の編集者というプロの方でも見落としてしまうケースがあるほどだそうです。

では、その見間違いほど似ている字にはどんなものがあるのでしょうか。

書籍『執筆・編集・校正・造本の仕方（美作 太郎 著）』によると字形が似ているために、つい見違えることがある字は、たとえば、

万と方 上と土 世と冊 亨と亭 人と入 今と令 任と仕 代と伐 伴と件 便と使 侍と待
仲と伸 悔と悔 侵と浸 侯と候 傅と博 他と地と池 倣と倣 兎と免 全と金
両と雨 回と同 滅と滅 別と列 到と倒 刊と刑 制と判 力と刀 巧と切 加と如 助と肋
幣と弊

午と牛 千と干と于 卯と卵 厄と危 又と又 子と干 左と在 合と令 名と各 因と困 国
と団 土と土 城と域 壤と壤 基と墓 埋と理 宣と宜 貧と貪 堅と豎 大と犬 奪と奮
太と大 失と矢 妨と防 姓と性 娘と狼 存と有 孤と狐 宇と字 官と宮 審と番 蓄と畜
寒と塞

客と容 対と討 巨と臣 己と巳と巳 師と帥 平と半 幻と幼 弔と吊 心と必 態と熊 怒
と怒 感と惑 惰と隋 悩と悩 思と恩 快と快 憶と臆 戴と載 手と年 析と折 抱と拘
挟と狭 技と枝 拾と捨 捐と損 接と按 友と反 改と攻と政 収と牧 放と故 斤と斥 旅
と族

施と旋 日と月 日と日 旦と且 旬と旬 普と晋 書と畫 木と水 木と本 末と未 村と林
東と東 松と杉 裁と裁 梢と稍 欧と歌 比と北 氏と民 水と氷と永 活と治 炎と災
爪と瓜 王と玉 田と由 田と出 當と常 白と自 眠と眼 衆と象 盲と育 短と矩 知と和
石と右

社と祉 祝と視 科と料 端と瑞 競と兢 薄と簿 糸と系 紛と粉 終と給と絡 緑と縁 綱
と綱と鋼 織と識 績と続 紀と記 続と読 考と老 與と興 般と船 若と苦 荻と萩 藉と
籍 衝と衛 複と復 詳と評 説と設 議と儀 診と珍 誠と試 諸と緒 輸と輸 賃と賃と賃
賃と賀

売と買 貝と貝 責と貴 販と敗 車と東 輸と輸 逐と遂 遺と遣 追と迫 都と部 險と儉

酒と洒 釘と針 開と閉 陳と陣 雑と離と難 零と霧 雲と雪 頂と項と頃 烏と烏 黙と
點

確かに、パッと見、あれ？と思う字あるよね。

岩波書店で40年本作りに携わった人が説く“本の正しい扱い方”

1. 本の開き方

新しい本を開く場合に、よくいきなり強く開く人があるがそれはダメです。

開かない本でも、開く本でも、このような本の開き方をしますと、本の背貼りが完全にやられてしまう。

かがり糸がゆるんで、折り丁がずり出てこわれてしまう。

そこで、最初に本を開く場合には、机の上かやわらかいものの上に静かにおき、まず双方の表紙をのど元まで開くようにする。

次に本文を前から十ページぐらいめくり、のど元まで開いてから指先で軽くおさえ、また、巻末の方から同じように十ページぐらいをめくって、のど元まで開いてから指先で軽くおさえるようにします。

このようなことを本の中央まで交互に二、三回ずつくり返しますと、本が開きやすくなります。

現在の本の中には、用紙の選択や背加工の工夫によって、開きやすいようにつくられているものもありますが、出版物全般からみますと、まだまだ開きの悪い本が大部分を占めています。

したがって、新しい本を開く場合には、以上のような注意を忘れないようにしてほしいと思います。

2. 本の読み方

さいきん、本製本を二つ折りにして読んでいる乱暴な本の扱い方をよくみかけます。

普通、本を読むためには、一八〇度開けば十分であり、本はその読み得る状態を考えてつくられています。

本は金属などでできていませんから、常識をこえた本の読み方をしないように心掛けるべきであります。

また、週刊誌でも持つようなつもりで、書籍を丸めて持ち歩いているのをみかけることがありま

すが、これなども本の限度をこえた扱いであり、本をつくる立場からしますと、ぜひやめてほしいことの一つです。

3. ページのめくり方

本を読み進めるためにページをめくるには、天（上部）を軽くめくるというのが、正しいめくり方とされています。

しかし、大部分の人びとは、下部をつまんでめくるように習慣づけられています。

下部をつまんで乱暴にめくると、とじ糸がゆるみやすく、ページが折れ込んだりする場合もあって、本の保存力を著しく弱めることになります。

しかし、注意してめくれば、一般にはそれほど影響がないものです。

また、指先につばをつけてめくことや、読みさしのページの小口を折っておくようなことは、本のためにやめてもらいたいことでもあります。

そのほか、読書をする前後に、手を洗うという習慣をぜひつけておきたいものであります。

4. 函の出し入れ

函から本を出す方法にはいろいろありますが、手づかみで函の中の本を出そうとすると、かえって本が出なくなるものです。

そこで、机の上か膝の上に本の背をのせ、静かに函を上を抜くようにしますと、楽に抜き出すことができます。

また、函に収める場合には、まず函の下部と本の下部とを合わせるようにしてから、函の頭の方から本を入れるようにすれば、スムーズに本を収めることができます。

このようなことは、一寸した工夫ではありますが、知っておきたい本の扱い方でもあります。

5. 本の保存

書架に収めるというのが本の普通の保存の仕方ではありますが、この場合、出し入れも容易にできないほどぎっしりつめることは、相互の本をいためることになります。

本は楽に出し入れできる程度にならべるのが、適切な収め方であります。

また、大きな本や重い本・厚い本につきましては、無理に書架に収めるよりは、机の上か手ごろの場所に平積みしておく方が、本の保存の上からいってもよいことであります。

また、本自体の保存の上で、とくに問題になりますのが、革製の本であります。

革の場合には、油気がなくなりますとボロボロになってしまいます。

革の防腐剤としては、卵白液やワセリンまたはパラフィンなどをベンジンにとかしたものが使われます。

これらを、五、六年ごとに塗るようにしますと、革の質をそこなうことなく、いつも生き生きとした感じを保つことができます。

なお、革類にかびが生じた場合には、まずきれいな布片でふき、かびのために生じた斑点は稀薄なアルコール液でふきとるようにします。

そして、アルコールが乾いたら脱脂綿か柔かい布で、革の細孔にワセリンを塗り込むようにすることです。

本の健康診断をする方法

書籍「本をつくる者の心～造本40年（藤森 善貢 著）」に本の健康診断をする方法が載っていたので紹介しますね。

それは本を平らにして背に近い部分をもってみることです。

背とは、書店の棚に置いてあったときに見えるタイトル部分のこと。

つまり、本を綴じている部分を保護しているところ。

良くできている本は、しっかりした手ごたえを感じるものです。

これらはだいたいにおいて及第点、七〇点を越えている。

また、悪い出来の本であれば、柔かくグニャグニャとした手ごたえを与えるものです。

たとえば背中が乾かないうちに背貼りをして、表紙を着せちゃって、そのうちにグチャグチャになるという本が、だいたいその中に入るそうですよ。

読書と記憶と知層

最近、読書によって知識が積み上げられていくことを、堆積されてできる「地層」にかけて「知層」と表現したACのTV／CMが非常に印象的です。

「本や新聞を読むたびに積み重なっていくものがある」

「読み終えるごとに、ほら、新しい世界が見えてくる」

「読めばあなたの知層になる」

学生風の青年が大きな本に架けたはしごを登っていくシーン、読書によって積み重なった知識が身とな肉となって蓄えられてゆくというものです。

食べ物が肉体を養う栄養であるのに対し、読書によって得た知層はその人の心の栄養となります。

読書は広い知識と豊かな心を養ってくれるんでしょうね。

読書というのは、短時間で他人の知識が濃縮したエッセンスをを吸収することができることを考えると、1000円弱で手に入ることを考えると非常にコストパフォーマンスが高いと言えます。

自分ひとりの経験というのは非常に限られたものだけど、様々なジャンルの本を読むことで、大勢の人の人生を疑似体験することができるわけです。

時間といえば、長田弘さんの「読書からはじまる」(NHKライブラリー)5章の「共通の大切な記憶」の中で、詩人らしいこんな言葉が載っていました。

「自分のもっている時間というものは、自由になる時間というのではないのです。自由に何かをする、何かができる時間というのではないのです。そうではなくて、自分のもっている時間の井戸から、記憶の水を汲みあげるための時間が、一人の「私」という空のバケツを満たす、充実の時間であるだろうというふうに思うのです。」(同上116ページ)

自分ひとりの記憶はたかが知れています。

すぐに空になってしまうバケツをたゆまず満たしていく行為、それが読書なのかな。

それは、本が単なる情報ではなく、人が紡いできた共通の記憶の集大成であるという畏敬をあらためて感じさせてくれます。

自分も読書によって大量にインプットしている時期がありましたが、やはりその経験つまりは「知層」が、今生きていると実感します。

ふだん接しない世界に気軽に触れてみることも読書の魅力ですよ。

みなさんは、どんな知層を自分の中に蓄積していますか？

人を助けるとはどういうことか？

私たちは生活していく中で、人を助けたり、人に助けられたりしながら生きています。

特別に意識する機会というのは少ないかもしれないけれど、家族間であれ、ビジネス上の関係であれ、医者と患者の間であれ、相手の役に立つことを行う行為を支援ととらえることができると思います。

私のように、支援という言葉が空気のようになってしまう、普段、気に留めることもなくなった人には、改めて捉え直す、考え直すヒントを得ることが出来ると思います、以下の本を紹介させていただきますね。

『人を助けるとはどういうことか一本当の「協力関係」をつくる7つの原則』シャイン, エドガー・H. (著)金井真弓(訳)金井壽宏(監訳)

普段、意識していない方にとっても自らの生活が双方向性の支援で成り立っている事とその動態、重要性が腑に落ちると思います。

そしてそれは当たり前前に流れていた生活を東北地方太平洋沖地震を切っ掛けに捉え直す視点を得られる良いきっかけになると思います。

本書は、「はじめに」と「最後に」で同じメッセージを投げかけてきます。

それは「われわれが支援者としてもっと有能になれば人生はより良いものになる」というものです。

よかれと思って手助けしたつもりが、かえって相手の機嫌を損ねてしまうことになってしまったことが、日常で、仕事場で、こんな経験、私もよくありました。

支援は、相手との相互関係なので、一方的なものになってはいけませんし、相手にも役に立つと思ってもらわなければなりません。

親切のつもりでかけた言葉や行動が、相手に一段低い所に置かれたと感じさせてしまうなど、なかなか難しい面もありますよね（汗）

必要なのは、相手の理解と信頼なのだと思います。

私たちは、普通に生活していれば、支援する側にもされる側にも成り得るし、事実、そうした両方の役割を頻繁に入れ替えながら生活しています。

災害時の支援も、基本は同じで、個々で違う悩みを理解するために、まずしなければいけないことは、尋ねることです。

「何かお手伝いをすることはありますか？」

「どなたか、困っておられる方をご存じありませんか？」

できることなら、なんでも！

そして、何かを求められ、それができそうならば、何でも応えていくということです。

では、それほどにありふれた支援について、なぜ今私たちが、この震災を教訓にして学ばなくてはならないのか？

それは、支援という行為が、本書の言葉を借りれば、『日々の生活の中で、支援そのものが重要な社会的通貨であり、適切な対応がされなければ不均衡が生じるということだ。いつ、どのように支援を与えるか、他人から支援をいつ、どのように受けるかを知っていると、人間関係はさらに生産的で喜ばしいものとなるだろう。つまり支援とは、あらゆる社会的行動の根底に存在する交換という日常的なプロセスであると同時に、ときには通常の流れを邪魔して、とりわけ気配りを持って扱わねばならない、特別なプロセスでもあるのだ。(p.60)』という、日常にありふれた行為だからこそ、ということになります。

また、『どのようにして支援関係を築き、維持するかという疑問への基本的な答えは矛盾したものとなる。というのも、その定義や説明はあきれるほど簡単なのに、確実に実行することは途方もなく難しいからだ。(p.116)』と言っているけれど、頭で理解しても実際の支援をうまくできるかどうかは別問題です。

「善いことをしているのだから、何でも許される！」ということはないし、物理的にも精神的にも厳しい立場にある被災者の方々に対して、あくまでも謙虚な姿勢が大切なのだと思います。

つまり被災者の方々が一番困っている問題は、全体の被災状況の傾向という大雑把な言葉には収まりきらないものであり、一人ひとり違うものだからです。

しかし、どこの、だれが、どのような悩みを抱いているかをすべて把握することは、今の状況の

中では、ほとんど不可能です。

一人ひとりにとって、もっとも重要な問題は何なのか？

それは、分かりませんとしか答えざるを得ないのが、現状なのだと思います。

そのような状況でできることは、尋ねて聴く御用聞き的な対応と、求められたら何でも応じていくよろず相談的な対応なのかもしれませんね。

完璧な支援関係を築けるわけではないのだから、それでも私たちは間違いを繰り返しながらでも、せっかく手を差し伸べるなら、少しでも相手の気持ちを察して上げられる心を身につけ、独りよがりな支援にならないようにしたいものです。

少しでもより良い関係作りと有効な支援関係を増やしていければと思っています。

ひとのちから

人は、困難にぶつかったときほど、思いがけない勇気や力が湧いてくるものです。

いろいろな壁があればあるほど、その越え方を自分なりの方法で考えるものでもあると思います。

だから、もし、ひとりぼっちを感じるがあったとしても。

誰かのやくに、たっているだろうか、と。

たとえば、何も思い浮かばなかったとしても・・・。

生きていることは、それだけで誰かのやくに立っていること、立つことを、忘れてはいけないと思います。

文句をいわず、ふてくされず、あきらめず、誰かのためになることを探す。

自分のこともままならない時には、とても難しいことだとは思うけど、小さな一つでも、それはいつか自分を支える力になるはず。

人はみな、必ず誰かから必要とされる存在であり、それはまた、必要としてくれる人に支えられて生きているとも言えるのだと思います。

遠く離れた私には、こんな言葉しか投げかけてあげれないけど、サマーウォーズの栄おばあちゃんの台詞がみんなのちからになってくれる様な気がしました。

「諦めなさんな。諦めないことが肝心だよ。」

「大事なものは、昔のように人と人が声を掛け合って、コミュニケーションを取ること。」

「あんたなら出来る。出来るって。そうだよ。その意気だよ。」

判断に必要な情報はいつも不足している

よく分からないものに対して重箱の隅をつついた情報を求めることは百害あって一利無しです。

何のために何が知りたいのかを明確にしなければ、情報をかき集めたところで何もすることができません。

情報は必要性を無視すれば無限に増えていきます。

考えるべきは、判断に必要な情報だけを求めることだと思います。

今しかできないことを選んで。

例えば、仕事は努力次第で後からでも挽回できるけれど、子どもと密に過ごせる時間、子どもが幼い時間は、「今」しかありません。

そう考えたら、子どもと一緒にいられる瞬間が最高の幸せだと分かるはず。

現代の社会は、毎日、スケジュール管理との戦い。

睡眠やリフレッシュの時間を犠牲にすることも多いと思います。

でも、恐ろしく大変な仕事と子育ての両立に、大きな喜びを感じる日々だと思うんですよね。

私の経験からひとつ思うことは、今という視点の重要性です。

一度にすべてを手に入れることはできません。

今、この瞬間は、今しかない。

後悔してからでは遅いから、今しかできないことは何か？を考えて選ぶこと。

これこそ、幸せになるための大切なポイントだと思っています。

自分の心に素直に、決断をためらわないで。

人は、大人になるとどうしても、周りの人や状況に合わせて、気持ちを隠したり偽ったりしてしまうものです。

でも、子どもたちは違います。

いつも、彼らは「彼ら」そのもの。

素直に、ありのままの感情をぶつけてきます。

そんな彼らと真剣に向き合っていると、毎日色々な発見があります。

そこで、思うのは、元気で楽しく過ごせることが何よりも大事だってこと。

でも、楽しく過ごすには、ゆっくり読書や映画を楽しむ私自身のための時間も確保して、精神的にバランスをとらなければなりません。

何事も完璧を目指さないほうがいいということ。

すべて自分の理想どおりにコントロールしたいと思うと、永遠に幸せになれない。

人生、予定通りにいかないことだらけです。

うまくいかないことも受け入れる。

幸せでいるためには、この心構えが大切だと思います。

他の誰かではなく“自分の人生”を！

ストレスをゼロにすることはできません。

私にとってバランスがとれている状態は、ストレスがありすぎないこと。

休むときは思いっきり休んで、ゴロゴロしてみたり、散歩や旅行に行ってみたり。

忙しくても、本を読む時間は確保する。

メリハリを大事にすることが、ストレスを減らし、バランスを保つ秘訣だと思います。

大きな達成感も大事ですが、日常の小さな喜びの積み重ねが、私にとっての幸せです。

人とコミュニケーションをとることが、私にとっての喜びです。

自分と人との関わりの中で生まれる、発見や驚きが大好きです。

誰かと比較したり、自分の置かれている環境がもっと良かったら、と考え始めるときりがありません。

私たちは、それぞれ自分の人生を生きるしかない。

今の自分、置かれている状況の中で最大限楽しむ方法、人生を充実させる方法を考えるようにしたいと思っています。

今持っているものの中で出来ることを。

病気をするまでは、目の前のことに夢中になる生活でした。

でも、どんなに忙しくても、立ち止まり自分の体の声に耳を傾けること。

そして、大切な人との時間を疎かにしないこと。

これは病気が私に教えてくれたことです。

自分ひとりの時間を持つことや、一生懸命学び、働き、何かを達成することは重要です。

でも、大きな病気を経験して分かったことは、どんなにすばらしい成果も、「あなたがいてくれるだけで、うれしい」と言ってくれる家族や友人がいる幸せにはかなわないということです。

がむしゃらに走り続けるだけで、気づいたら、周りに自分を想ってくれる人、苦しみや喜びを分かち合ってくれる人がいなくなったら……。

自分を愛してくれる人を愛すること。

大切にしていきたいです。

私たちは、何かいつも悩んでいます。

でも、私たちは、今持っているものの中で出来ることを考えるしかありません。

今出来ることの中でベストを尽くせばいい。

ギブアップしたらそこでおしまいです。

有名な言葉ですが、コップの中に水が半分入っているとき、「もう半分しかない」と考えるか「まだ半分もある」と考えるか。

私はいつも後者でありたいと思っています。

未来に託して後悔しないために、今、変わる勇気を。

私たちにはいつまで生きる時間が残されているか分かりません。

夢半ばで病に倒れ夢に挑戦することができなかった人を見ました。

あるか分からない未来に託して後悔しないために、今、変わる勇気を持つこと。

そう、“未来”とは“今”のことなんですよ。

周囲の目を気にするのではなく、自分自身でよく考えて、優先順位を思い切って見直すことが大切です。

挑戦することが不安になったときは、いつもこの言葉を思い出してみてください。

「Everything will be fine! (すべてうまくいくよ!)」

あなたを幸せにするのは最後はいつだってあなただ！

一話一話は非常に短く、ほんの数分で読み切ることが出来る話が多いです。

だけど、相変わらず、読んだ後に色々と考えさせられるお話が多いです。

その本でみつけた言葉が「あなたを幸せにするのは最後はいつだってあなただ」。

人は、どんなときも言葉を探しながら、生きているんだなあ～って感じています。

自分にとって、いちばんゆたかでないものは、言葉です。

人と人を差えるのも言葉です。

自分は言葉をどうゆたかにできるのか？

自分がどういう言葉をどう使うか、その言葉のなかに自分をどう表してゆくのか、それができるのか、できないのか・・・

だから、言葉は大切に、そのことが、重要なんだなって思うんだけどね。

そんな探しあてた言葉は、心を支えてくれるものになるのかもしれない、ね。

記憶

遠ざかれば遠ざかるほど、色鮮やかになります。

口を開くたびに、自分の言葉が扉を開けるみたいに新たな光景を見せてくれるから、ひとの記憶とは、なんと残酷なんだろうって思うこともあります。

記憶は本当に残酷ですね。

薄れたと思っていても、ある日突然よみがえったり、ふいに色濃くなったり。

まぶしい現実のリアルさの中で過去と未来が渾然一体となるさまは、死に向かっているのか、生に向かっているのか、一瞬わからなくなるような狂気や絶望に近い感じかもしれませんね。

たとえ悲しみの中でも、記憶の中にわずかでもいいものが含まれているのなら、そこを否定する必要はないのかもしれません。

一日一日を真摯に生きた人間に、別の道はないのだと思います。

さらに、無意識の記憶というのもあります。

本人は覚えていないし見てもいないのに、空だけが知っているというようなこと。

人はすべてをコントロールできるわけじゃありません。

気づかないところで、奇跡は起きているのだろうと、そんなふうに思います。

見えない力に動かされたり、守られたりしているのでしょうかね。

そうであれば、あがくことは無意味であり、大きな流れの中でたゆたうしかない。

それが世界を肯定していくってことなのだろうって気がします。

いつか、透きとおる記憶になるように。

記憶はいつも、時間とともに、あわく あわく まるくなっていきます。

また、人は皆、いろんなことを抱えています。

私も、抱えているかもしれない。

そのことを憎むのではなく、受けとめるために、いつか、ただしい記憶に変わるまで、うれしさもかなしさもつんでいくしかないのでしょう。

辛いことも悲しいことも苦しいこともあるかもしれない、けれどもそこには他の人には見ることのできない何かが見えるかもしれない、知ることのできない何かを知ることができるかもしれない、得ることのできない何かを得ることができるかもしれないから・・・

今日、うれしかったこと。

今日、かなしかったこと。

たとえば、一年後の今日、その気持ちは、どちらにも振れないような、どこか正しい、うすらかな記憶になっているはずです。

だから淡々でいい、と思うんだけどね。

体験というのは、とても大事だと思う。

体験自体が大事というよりは、その体験から自分が何を感じるのか。

そして人に対してどういうイメージをもち、最終的に、自分はどいいう人間なのかを考えることが大事なのではないだろうかと思う。

体験は、そのよすがになるから。

そうそう、韓国出張では、100年ぶりの大雨に遭遇したし（汗）

自分を知ることは結局、他人に対しても理解できる範囲が広がるということなのでしょうね。

いろいろな体験を重ねていくことで、それまで知らなかった自分の一面を知ると、とまどいはあったとしても、ものごとや人への対処、対応がきっと違ってくるはずです。

形のないものに誰が愛なんてつけたのだろう

中島みゆきさんの『あした』という曲に出てくる歌詞です。

そういえば、世阿弥は、舞の心得として「目前心後」ということを言っていました。

目は前を見ながら、心の眼は自分の背後に置かなくてはならないという訓えだそうです。

形のないものは、見ようと意識を働かせない限り、見えない人には一生見えない世界があるの
でしょうね。

例えば、愛もそうだろうし、優しさとか、知識や情報や技術も・・・

隣り合わせるということが、一緒に生きていくということと知ったり、不幸が幸せへの出発点
であることを経験したり、これまで学んだことが、どのように役に立つかどうかを決めるのは、い
つでも学ぶもの自身です。

価値は知識や情報や技術、ましてやお金に内在するのではなく、それを用いる人間が構築するの
であり、その質を深めるのは、不安定の量に正比例し、成長するためには負荷をかける必要があ
るのでしょうね。

もしかしたら、自分自身を十分に愛せていないから、相手やものに何かを求めてしまうのかも。

そういえば、小さい頃、公共の乗り物や施設なんかで隣り合わせたりすると、ミカンやあられな
んか、くれた人がいたけど、それは、人は、ひとりでは生きられないってことを教えてくれてた
のかな（笑）

みかんないけど、ベビースターラーメン食べない？

あ！

持って帰って、お湯入れて食べると、チキンラーメンになるぜ（笑）

変わっていいんだよ。

現代生まれ現代育ちの私たちにとっては、生まれた時から今の世の中が普通だった。

緑も多くなく、土も少ない、闇も少ない世界・・・。

だけど、文明は進み、みんななに不自由なく暮らしている。

そういう世界しか知らないから、その価値を考えたことはなかった。

昔と今と、どちらが幸せなのか、豊かなのか、よく話題には上るけど、実際のところどうなのか？

その答えは、たぶんでないと思う。

時とともに、変わらないものなどなく、人の暮らしも、自然のあり方も、人の有り様も、幸せも豊かさも、この世に存在するすべてのものは、同じ状態を保つことなく移り変わっていき、永久不変なものなどない。

でも、苦しみも哀しみも、物事のたった一面にしか過ぎない。

現実には、楽しいばかりでもないし、つらいばかりでもない。

その気になれば、考え方ひとつで世界は変わる。

自分の考えや常識で、自分を縛る必要はないんじゃないかなと。

だって、よく人は、価値観の違いと言うけど、価値観って、ひとつしかないし、それはもはや価値観ですらないから。

価値観は、違っていいんだよな。

不一致が当たり前。

いろんな価値観とくらべてこそ、価値観なんだと、そう思う。

自分の価値観も、別の価値観と比べてみて初めて価値観たると言えるし、良く分かるんだと思う

。

自分の目は、自分を直接みることはできない。

自分をよく見るためには、違う場所から見なきゃダメってこと。

現代社会のあくたにまみれて感覚を麻痺させ、それが時代だからと、そんなセリフひとつですべてを片付けたくない。

もっと人間らしくありたいと。

今のこの世界はあまりにも乾いていて、カサカサだけど、人と人をつなぐ情を、鬱陶しいと思いたくない。

人生は長くて、世界は果てしなく広い。

私たちが知っている世界も常識も、こ~~~~~んな小指の先ぐらいの小さくて狭い世界だと気がつけば、謙虚な気持ちになれるよね（笑）

だったら、肩の力を抜いて行こう♪って思わない？

否応なく与えられた世界で人は何かの役を演じてる？

人は日常生活で何かの役を与えられ、その役を演じているうちに、だんだんと感情移入していきます。

そして最後には元々の自分の性格がどうであろうと、その役と本当の自分が同化していく事が実験によって証明されたそうです。

もし、そうであるなら、敢えて自分を表現すると、話しかければ決まった台紙を喋るテレビゲームのキャラクターに近い気がしないでもないぞ（笑）

無意識のうちに行動してるんだらうなあ。

こうすることで、その時その時に合った行動をすることが出来、ストレスを感じにくくしているのかも。

そうでもしないと、たぶん、ストレスに押しつぶされてしまうのかもしれない。

ただ、たまに、何気なく演じている役を、その時その時でスイッチを変えられたら、問題は起こらないのだからけど・・・

そうもいかないんだよねえ・・・

スイッチの切り替えがうまく変えられない事があったりして（汗）

そういうときは、敢えて意識的に、その時の役を演じるように、しかも、自分の思いつく最高の役柄を（笑）

人は自分の過去とは別れることができない？

普段、手に取ることの少ない本を、パラパラめくり立ち読みしてみたら・・・

こんな会話が目に留まりました。

小手鞠るい（著）「別れのあと」

「自分のこと愛してる？」

「私とどっちが好き？」

こう、彼女から聞かれた彼は、彼女と答えたんだけど、その答えを聞いて、いつか季節が変わり洋服の服を着替える様に、彼との別れを予感します。

ん～確かに、難しい質問だけど、過去の記憶で、今の自分をどう紡いできたのかが、少なからず影響してるんだらうな。

人は人生の中で、数えるのもうんざりするくらい、出会いと別れを繰り返します。

いい思い出も、苦い思い出も全部。

それによって自分は編集されて、そして自分が少しずつできあがっている。

そう言えば、以前、読んだ本の中にも同じような話があったことを思い出しました。

大崎善生（著）「パイロットフィッシュ」

人は、一度巡りあった人と二度と分かれる事はできない。

どんな形で別れを認識したとしても、結局はその人と別れることなどできていない、ということ。

どんな形で別れたにしる、その別れた誰かの記憶は永遠に残るし、記憶の中でその誰かは成長し、間違いなく影響を与え続けてるんだらうな。

だからこそ、人は出会った人と別れることができない。

言い換えると、人は自分の過去とは別れることができないんだ、と。

人生の中で誰と出会うか？

誰かとの出会いで運命が違っていた瞬間が確かにあるんだろうね。

この人と出会ってなかったら・・・。

いい意味でも悪い意味でも、出会いは人の運命をかなり決定付ける要因のひとつかもしれない。

であれば、最善を尽くして、言葉だけでなく、行動の行為としての記憶というカタチでそれを伝えられれば、自分が相手の中に残した記憶はダイレクトに相手に響き、後悔しない人生を歩んで行けるのかも。

見返りを期待して立てた下手な筋書きをなぞるような人生とは全く異なるんだろうな。

何を得たかではなく、どう生きたかに人生の価値をおく、自分以外の何かではなく自分の中の何かに価値をおく、そんな姿勢で出会えた人と向き合えたら、どんな結果でも受け容れることができるはず。

古代アテナイの三大悲劇詩人であるエウリピデスは、「人の持つ一番の財産は共感してくれる配偶者である」と、言っていたけど、配偶者に限らず、思い出を共有できる相手がいると言うのは、とても幸せなことだと思います（笑）

過去の出来事をクヨクヨ思い悩む傾向がんなら最善を尽くすことを目指してみる。

後悔の多くは、最善を尽くさなかったことが原因なんだから、受け取る結果は自分を信じて、天に任せれば良いのかなって、そんな気もしないでもないけど、なかなか難しいよな（汗）

ただ、今日の愛があるのは、昨日の歓喜があったからに他ならないと・・・。

作家の辻仁成はこう言っていました。

「相手を喜ばせるのが気持ちいいと感じることならば、それは、全て愛に違いない」と（笑）

自分の心の声を聞き取れるように、ひとりの時間もちゃんと楽しめるように、つねに心を動かす

訓練をして、そうして相手に共感する力がついていき楽しむことができたならば、少しは人生の旨味がわかってくるのかなと、そんなことをふと思った一日でした。

笑顔

今日（2月5日）は、笑顔の日だそうです（笑）

ニコニコといつも笑顔でいようという日。

2と5の語呂合わせに由来。

まいにちは、いろんなことが起こります。

笑顔で過ごせるときもあれば、そうじゃないときもあるし、調子のいいときもあれば、落ち込んでしまうときもあるし・・・。

どんな自分も、それがそのときの自分だから。

でも、そこに笑い声があると、場の空気はふっとなごみます。

笑っている人のそばにいと、なぜだか笑顔になれるでしょ（笑）

やさしい気持ちや、うれしい気持ちと一緒に、笑顔は連鎖してゆくものなんだろうね。

ため息のこぼれそうなときは、ため息のかわりに、できれば、鏡にむかって、おもいきり笑顔をつくってみてはどう？

鏡の向こうに、きっと、ひとつ、小さな笑顔が見つかるはず。

誰かの笑顔を見たいときも、やっぱり、その人の前で、笑顔をつくって見ないと、ね♪

そうすれば、あなたの前に、大切な人の嬉しい笑顔が、きっと見つかるよ。

閑話休題。

そう言えば、みなさんは、大事な人と大切な人、このふたつの言葉を使い分けて使っていますか？

分けて考えてみると大事と大切な二つに分けられますよね。

知らなかったんだけど、大切な意味は緊急を要するさまから意味を派生し、平安末期には肝要なさまの意味で用いられていたそうです。

それが、中世期にはかけがえのないものの意味から心から愛する意味としても使われるようになりました。

そして、最終的には1603年に大切に、愛と訳されていたそうです。

大事な人は、自分にとって重要な人物や重大な係わりを持つ人の事を指す言葉だけど、大切な人は、かけがえのないものであり、心から愛する人のこと。

たとえば、大切な人を想うとき。

大好きな人と、過ごす時間。

大切な人への、プレゼント。

その人の笑顔を浮かべながら、いろんなことを考えているはず。

でも、その気持ちが強ければ、強いほど、気がつけば、想いは重いものになってしまいがち（汗）

けれど、大切なものこそ、深く願う気持ちほど、そっとそっと、かるやかに想うことができないと、心の中にある想いに、押しつぶされてしまいます・・・。

そうならないために、その人の笑顔を何よりもうれしいと想うのなら、何よりも、いつも笑顔で想えるように、そして、ぱたぱたと笑顔をはこべるような関係でありたいものです（笑）

そんな味方がいれば、心づよいし、困ったときは、いつも、ぱたぱた飛んできてくれるだろうし・・・いや、o(%)○シュワッチかな（笑）

3分間だけど、とても心強いはず！

どんなときも、ずっと味方でいてくれる、どんなときも、ずっと味方でいられる、そういう人を大切に大切に想う時、じわっと自然に笑みが零れてくるんだろうな。

そんな、とびっきりの笑顔に出会えたとき、それは心から嬉しくなる瞬間でしょ？

だから、まわりの嬉しい顔を見逃さないで、ちゃんとキャッチできるように気をつけておいてください。

それから。

私自身も、年齢を重ねるごとに、いつも嬉しい顔の人でありたいな、と思っています。

悲しみは絶えないから、そんな小さな幸せに気付かないことことも多いし、なかなか難しいだろうけど、なんてことのない毎日、あらためて振りかえってみれば、それはそれはたくさんの嬉しい顔に出会っていたはず。

みなさんのまわりにでは、今日、どんな嬉しい顔がありましたか？

沖縄県出身、やや無名？のシンガーソングライターしおりさんの「smile」、歌詞がストレートで心に響く曲です。

聴いてみて♪

取り戻したいと願う普通の日

おしまいのホイッスルが鳴ろうとするとき、もし、もう一日だけロスタイムが許されるとしたら、人はどんな一日を望むのだろうか？

あなたは、どんな一日を望みますか？

でも、あとすこしと願うのは、罪よりふかい愛ゆえに、罪なのかな。

終わりは、必ず訪れるけど、だからこそ、忘れないで、覚えていようと心に誓いながら、最後を悟ること。

覚悟。

でも、もし、ロスタイムのもう一日に取り戻したいと願う一番大切な日、それは普通の日なのかもしれない（笑）

さまざまな記憶と出会い直すもう一日。

そう、終りは始まりでもあるから。

普通の日をもう一日と呼びかえるとき、静かに気づくことがあります。

今日は、ブログの日だそうです。

静かな夜や朝の時間に、日々の出来事を綴る。

自分の心を見つめなおす大切な時間♪

歩いている「いま、ここ」を楽しめる人でありたい（笑）

自分らしく

自分らしくと思う心は、そこに誰かの存在があってこそ、生まれてくるものなんだろうな。

日常は、思い通りにならないことがたくさんあるけれど。

ときには、自分の意志で変化させてゆけること。

それが、自分らしく生きるってことなんだと思う。

自分らしく進んでいけば・・・。

やがて いとおいしい道になるから (笑)

映画『僕たちは世界を変えることができない。But, we wanna build a school in Cambodia.』の主題歌だったRAM WIREによる「歩み」聴いてみてください♪

「上手く歩かなくていいから 一歩ずつ君らしくあれ 僕らはしゃがみ込む度にそう そこに咲く花を知る」

もうすぐ春だし♪ポケットを空にして旅にでようよ♪

旅の経験とは、迷いの経験なのだと思いますか？

旅は人に、いったい何が正しいのか、何が間違っているのか、自分は何がしたいのか、迷わせることを可能にしてくれます。

これまで疑ってこなかった価値観を見つめることも可能にしてくれるから・・・。

その迷いを経ると、いつでもどこでも通じる自由の扉など、実は、どこにもないことがわかってきます（汗）

だけど、その一方で、常にいつ何処でも人間が抱き続けてきた願い事や人間の本質が見えてくるのだろうと、そう思います。

それは、たぶん、人間関係への欲望（＝愛すること）と生存本能（＝生きて死ぬこと）ではないでしょうか？

つまり、私たちは、そのままでは使えそうにないジャンク品と同じみだらな気持ちしか持ち歩いていないし、持ち歩けないということが解ってくるのでしょうかね。

でも、いつでも、その気持ち、ポケットを空にする自由はあるのかなって、そう感じます。

そう、ポケットにあるものを捨てることではなくて、身体と心の自由を取り戻すために、いまは持っているもの（価値観や目当てや何やかや）すべて一端、空にして、いちからやり直す自由があるということ。

これまでの人生を引き受けつつ、ゼロから考えて、新しく新たな始まりを生み出そうとすること。

私たちは、いつでも、無垢な自分に戻ることができて、新しい始まりを生み出す力を持っていて、やり直す自由に満ちあふれているんじゃないかと、そう思います。

なんだか、堅苦しく重苦しい力ではなく、しなやかでゆるやかな、そんな力を旅の途中で手に入れているんじゃないかな～なかなか実感湧かないけど（笑）

そうであれば、価値観が変わると、レールを外れた自分の道さえ変わるだろうし、ましてやレー

ルを歩んでいる人の道は、変わらないはずがないよね！

それじゃ～ここで一曲、聴いてみてください♪

アコースティックなイントロから純粹に生きていくことへの憧れを歌い上げている坂本真綾で「ポケットを空にして」♪

『何のために生きていくのか

そんな難しいこと考えながら

生きていくのって窮屈じゃない？

準備なんか要らない

自分の気持ちのまま

まずはその一歩を踏み出すだけ

そう 明日へ！』

気ままに寄り道♪てくてく散歩の旅もイイねえ～♪

旅とは何でしょう？

自分がいつも生活している日常エリアを越えたら、それは、もう、旅（笑）

移動の所要時間や距離でなくて、気持ちの問題かな。

近所の山や川や海でも、「こんな所があったの？」と感動できれば、何となく旅した気分を味わえます。

なんだか、とても優雅な時間、旅を楽しんでる感じです。

楽しむという事が大切なんだと思います。

魅力的な人って、人生を楽しんでいる人では？

世の中、とかく面倒が多いけど。

でも、その面倒を楽しんで乗り越えると、辛いですが楽しいんだよね（笑）

辛さと楽しさは、相反するようで共通するものがあるような気がします。

で、明日から、春の陽気に誘われて、のびのびと男旅に出かけてきます♪

ポカポカ暖かい陽射しを浴びて、春を満喫するには、まだ、早いけど（笑）

まあ～思い立ったら吉日、明日は大安だし、ね。

早く起きた朝は公園へ行って芝生へゴロン♪して緑に触れるとココロが目覚める♪かもな（笑）

GOKIGEN SOUND (ごきげんさん)デビューアルバム「ゴキゲンサン ～365日のドライブ～」から、リード曲「ドライブ」聴いてみてください♪

スズランの日

5月1日は日本では、メーデーですが、ヨーロッパ、特にフランスでは、すずらんの日（Jour de muguet）でもあります。

お世話になっている人や愛する恋人、家族にすずらんを贈る習慣があり、そして贈られた人には幸運が訪れるそうです（笑）

だからかな、すずらんの花言葉は『幸せの再来』なのかも。

そうそう、「幸せの再来」なかでも13輪のすずらんは最高の幸福を与えてくれるそうです（笑）

大切な人の幸せを心から願う気持ち。

その気持ちこそが幸福を運んでくるんでしょうね♪

日本ではなかなか知られない行事ではありますが、こんな素敵なスズランの贈り物、もらったらうれしいですね～♪

そうそう、スズランの言い伝えに、スズランの香りを思いをかける人にふりかけると、自分をふりかえてくれるという言い伝えがあるそうですよ（笑）

「どうして♪」という好奇心を持ち続けるのは、実はとても難しかったりします（汗）

子どものままの好奇心のかたまりを、大人になっても、ずっと持ち続けることができれば、どんなに素敵でしょう。

子どもの頃は人に尋ねていた答えを、自分自身で探したら、無限の発見があるんだろうな（笑）

「どうして？」という気持ちを保ち続けて問いかけに丁寧に答えれば、毎日が工夫と発見であふれてきます。

何かを学ぶときに大切なことは、好きなことや、得意分野の力を伸ばして自分に合う何かを発見したいという気持ちをみつけることです。

あなたの「つくりたい」という思いを芽生えさせて、解き放つ。

多くの知識を吸収した上で、自ら考え、動き、探求する。

その一歩は、ほんの小さな興味から始まります。

自分という道具を選んでもらえるように、手入れ（よく観察し、よく考え、丁寧に行なう。）を怠らずに、自分のデザインをチェックしておく。

いったい、自分はどれだけの荷物を持てるのか、キャパシティを知っておくことは、とても大切です。

例えば、所有するものや情報の量、仕事の量など。

好奇心が指し示す先に、本気で打ち込める自分レシピが見えてきます。

簡単で楽しいこと（したいこと）より、大変だけど面白いこと（やるべきこと）の違いを理解して、それをカスタマイズしてもっと良いものにどんどん生まれ変わらせ、究めていく。

ごく普通のことでもきちんとやれば、特別なことになって、これまでにない達成感を味わうことができると思います。

また、人は、積み重なったあきらめが重すぎて止まってしまい、自分に翼がないと思い込み、飛ぶことをあきらめている場合があります。

終わりを怖がって始めることも出来ず、嘘ついて自分探しと心かばっていたり。

遠すぎて届かないのなら、不器用でも今を描くためにも、小さくてさりげないことにどう向き合うかが、人生を大きく変えていくための指針のひとつになると思います。

人の内面は絶えず変化し、成長をとげています。

日々の暮らしも惰性に陥ると輝きを失い、淀んでしまいます。

例えば、いつもより少し早く起きたり、しぐさを少し優雅にしたり、そんな「少し」を繰り返すうち、人生は輝きだし、いつでも羽ばたいていけるって思いませんか？（笑）

そして、「あ、これいいな」とか「この人は素敵」とか、魅力的なモノや人、考え方をシンプルに「いいな」と感じる心のアンテナがたくさんあるのは素敵なことです。

まるで恋するみたいに何かときめく心は、いつだって溢れるほどのハッピーな気持ちを連れてきてくれるから（笑）

家族がいても、お父さんやお母さんと呼ばれるようになって。

さらにさらに、すごく年をとっても。

暮らしの中に心ときめく瞬間はたくさんあった方が、断然楽しくなると思うのです♪

異性を好きになることだけがときめきではありません。

たとえば、それが恋と呼べるようなものでなくても。

恋してるみたいに夢中になれるもの、ドキドキできるものが見つかるかどうか、ということ。

ありふれた暮らしの、流れてゆく毎日のなかで、心ときめかせる時間をほんの少しでも持つことができれば・・・。

それだけで、この人生は豊かで幸せなものだと胸を張れるような気がします。

いいなの気持ちを、心の中にできるだけたくさん溜めておけるように。

ときめきのアンテナをいつも、忘れないようにピンと立てておきたいものですね（笑）

だけど、現代のような情報過多社会では、人はつい目移りしがちです。

移り変わる流行に次々と飛びついてしまったり、あるいは多過ぎる情報に気後れして新たなチャレンジができなかったり。

でも、そんな中でも何かを選び続けていれば、フィットした！と思える瞬間がきっと来るはず。

自分に合った食べ物、趣味、友人、恋人、服装・・・。

大事なものは、その瞬間の喜びを深く味わうこと。

喜びを心に刻めば、そのたび確かな目が育っていくと思います。

それもまた、自分の心を丁寧に扱うことなのでしょうね。

そしてもうひとつ、大好きなことをひとつ持っていれば、それが力になってくれると思います（笑）

好きという気持ちは、楽しみや幸福感だけでなく、揺るがない幹も作ってくれているのかもしれないですね。

そして、そこに同時に花も咲いていたら、こんな素敵なことはないかな（笑）

ちいさなことであっても、心躍ることや弾けることを日々見つけて愉しめば、種は刺激されて花が咲くはず。

人はすべて違った木を持っているけど、でも、全員に共通するのは、それぞれの木や花を丁寧に育てることの大切なのでしょうね。

自分と自分の愛するものに対して、毎日慈しみをこめて接することを、忘れないでいたいですね。

日々新しい自分を探して、小さな驚きや喜びを見つける冒険に出かけて、そんな思いを積み重ねていければ、その先にきっと、確かな幸福感が生まれ、ゆるぎない幹のような自分自身が育って

いくと思います。

幸せも不幸せも、喜びも哀しみも、楽しみも寂しさも、綺麗も汚いも、全ては自分次第なので
から！

美味しい食事のように、ほっとやすらぐお茶のように、日々を味わっていけたら幸せだし、そ
して、人生に「深み」や「重み」を与えるもので人生の中で大切なのは、どれだけ人に与えられ
たかと思うので、次の世代にどんどん知恵を与えて、明日が来るのが待ち遠しい気持ちで「おや
すみなさい」と言える毎日でありたいものです（笑）

何事も壊れるという前提があるから、そこがスタート！

ものや人のつきあいも、そう。

ぶつかり合って摩擦がおき、壊れたりひびが入ったときが、まさにスタート！

であれば、豊かさとは、目に見えるものではなく、そこに隠された物語なんだろうね。

自分が真剣に手をかけてかかわるのであれば、少なくとも豊かな人生と言えるはずです（笑）

本物のポジティブシンキングとは、強烈な自己否定によるものだ！

暮らしの小さなことでも、人とのかかわりでも、普段の仕事の中でも、自分なりに誤っていない道を歩んでいるつもりです。

それでも、たぶん、間違える（汗）

正しいとしても、その道が完璧とも限りません。

また、人の気持ちや考え方は、ものよりも壊れやすく、何回でも壊れるから厄介です（汗）

そのたびに私たちは、分かれ道に立つことになります。

その時、どちらを選ぶか・・・

岡本太郎も同じような事言っていましたが、生半可な気持ちではなくて、タフな試練の方を選ぶべきと思う。

その結果、傷や綻びが丁寧に直され、修繕されたとき、きっと人やものたちとの関係は一段と深く、豊かなものになっているはずであり、おだやかで満ち足りた気分が味わえるんじゃないでしょうか（笑）

そうであれば、信じると同時に、他の道、別のやり方を考えることは、今の自分を否定することから始まっていくと思うのです。

温故知新という言葉があるとおりに、古いものや先人の知恵から学ぶことはたくさんありますが、その一方で、今の時代ならではの自分なりの新しさを見つけることは、生きている証ではないかと思えます。

どんなに小さな成功にも喜び、感謝する。

その代わりに、常に自分を否定して「まだまだ」と感じ続ける。

それがいちばんだと思います。

だからこそ、いつも自分を壊していきたい！

自己否定を繰り返し、自分を粉々に壊していきたい！！

心をやわらかくするために・・・

新しい精神を見つけるために・・・

考えるだけで留めず、考え抜く。

いつもの自分と違うことを、今日、何かひとつ試してみませんか？

TVドラマ『ハゲタカ』と『リーガル・ハイ』の共通性

昨年、サンデル教授の正義論（「幸福の最大化」「自由の尊重」「美德の促進」）が世界中で受けていましたね。

「これからの「正義」の話をしようーいまを生き延びるための哲学」サンデル，マイケル(著)鬼澤忍(訳)(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)

過熱する競争社会の中で忘れがちな判断基準を再考させるものであり、私たちに、何が重要で、その理由はなぜなのか考えることを強いるものでした。

私たちを取り巻くものすべてが速く流れ、何もかもが流動的である時代。

本当の道標は自分たちの内面に揺らぐことなく存在するのだと知ることは、心強く、勇気づけられるものです。

ビジネスや日常の中で、道德哲学が今また注目され、正義について我々が再び語り出したことは、まさしく時代を反映しているといえるのかもしれませんが。

そこで、タイトルにある二つのTVドラマ『ハゲタカ』と『リーガル・ハイ』を観て感じたことが、この正義とは何なんだろうか？、社会での「力」とは何なのだろうか？ってこと。

小説『ハゲタカ』の中に以下の文章があります。

「俺は悪党じゃないさ。正義の味方だ。ただ、世間の正義と俺の正義が違うだけだ」(p.174, ハゲタカ(下) (講談社文庫))

「ハゲタカ〈上〉」真山仁(著)(講談社文庫)

「ハゲタカ〈下〉」真山仁(著)(講談社文庫)

また、以下は、映画『ハゲタカ』において、一連のマネーゲームの後での2人のやりとりのセリフです。

「じゃああなたが経営者ならどうしたんだ」（古谷社長）

「私は経営者ではない。ファンドマネジャーだ。」（ハゲタカ）

「おまえは傍観者じゃないか！（叫）」（古谷社長）

正に「資本の論理」と「経営の論理」の断絶があらわれています。

また、TVドラマ『リーガル・ハイ』の第四話（

http://www.dailymotion.com/video/xqorzm_yyyy-yy-4_shortfilms）での出来事。

利益背反の黛に「なぜそんなことをした？」と古美門。

黛「正義のためです。」「私は正義を守るために弁護士になったんです。」

古美門は「可哀想な人間を憐れんでいるだけだ」と指摘。

黛は「正義はどこにあるんですか！」と、赤面しそうな「青臭い」ことを言い返します。

古美門「神でもない我々にそんなこと分かるはずもない。正義は特撮ヒーローものと少年ジャンプの中にしかないと思え。自らの依頼人の利益のためだけに全力を尽くして戦かう。我々弁護士にできるのはそれだけであり、それ以上のことをするべきでもない、分かったか朝ドラ！！」

「正義は特撮ヒーローものと少年ジャンプの中にしかない」とは、サンデル教授も思いつかない？正議論の白眉か（笑）

『ハゲタカ』の鷲津しかり、『リーガル・ハイ』の古美門しかり、強大なものを操るライセンスを持っていること。

それは間違いなく強いと思うのですが、ライセンスを持つ者自身は、その闇の部分や重みも抱え込まなくてはならないのでしょうか。

闇も重みも抱え込まないもう一つの強さの形は、ライセンスを持つ者へのパイプと、彼を動かすためのカードを保有していること。

それが鷲津や古美門の強さなのかな、という印象を持ちました。

具体的には情報収集力と、情報を使った根回し。

そして情報の意味を咀嚼する頭脳と、大胆に使いこなす、その実行力。

この4つの情報リテラシー能力が大切です。

ここで、内田樹さんは、情報リテラシーについて以下の見解を述べられていました。

情報リテラシーについて

http://blog.tatsuru.com/2011/09/16_1350.php

思うに、最強の勝負師は、「開戦の前から勝負は決まっている」状態に持って行くのがうまいの
でしょう。

本当に大切なものは目には見えない

見えないからこそ確かに感じるココロの絆があったり・・・

何気ない毎日を過ごせること、それが1番のキセキだったり・・・

今日、6月29日は「星の王子さまの日」なんだとか（笑）

このアニメ観たことありますか？

『星の王子さま プチ・フランス』

目の前のものを追うのではなく、その後ろについてくるものを大事にすること。

無駄になってもいいから、何かへのめり込みながら、全力を注ぐ。

そこからしか、人生の真実は見えてこないんでしょう、ね。

目に見えない部分を初々しく保てたら、毎日を新鮮に生きていけそうだなって、そう感じませんか？

成長しなくてもいいけど、せめて、心が固まってしまわないように、いつも新しくありたいと思います。

さあ～ゆったりした時間を過ごしてココロをリラックス♪

アルバム『夢供養』から「風の篝火(かがりび)」

今日は、さだまさしの魅力が結実したかのような煌きを放つ代表傑作と言ってもいい、1979年発売のソロ4枚目のアルバム『夢供養』から「風の篝火(かがりび)」をご紹介します（笑）

長野県の辰野の蛍祭りが舞台となっています。

都会へ出た女性と地元に残った男性のいつの間にか気持ちに距離が開いてしまっていた無常観を描いた作品です。

透明感のある澄んだ音色と当時のさだの高音域の声が儂い印象を生み、より一層この世界を表現していることでファンの間から人気が高い楽曲ですね（笑）

このジャケットには、ローカルな駅に佇むさだが写っています。

ちょっと、もやがかかっているいい感じです。

この写真の駅が、30年前の軽井沢駅なんですよ（笑）

すべてのものや人には、始まりがあれば終わりがあり、出会いがあれば別れがあります。

点けた花火はつかのまに消えていきます。

篝火もやがて燃え尽きます。

蛍は死にます。

人も死んでいきます。

多くの夢や希望とともに・・・。

生あるものは、必ず死ぬ運命にあります。

これは厳然たる事実です。

だからこそ、一期一会。

生あるものは、生ある限り、生あるもの同士、愛しみあうことが、だからこそたいせつなんだと思います。

私が中学生の時、友達の女の子に薦められて、初めて買ったレコードです。

このアルバムの中で、一番好きな歌ですかね（笑）

それでは、聴いてみてくださいね♪

「風の篝火(かがりび)」さだまさし

アルバム『夢供養』から「療養所（サナトリウム）」

今日は、さだまさしの魅力が結実したかのような煌きを放つ代表傑作と言ってもいい、1979年発売のソロ4枚目のアルバム『夢供養』から「療養所（サナトリウム）」をご紹介します（笑）

昔、聴いた曲なんだけど、なぜか久しぶりに聴くと、昔とは違う曲が妙に心に響くときってありませんか？

結核療養所の孤独な老婆との交流を描く形式を借りて、人生の冷酷さとそれ故優しくなれる人の不思議さを歌った楽曲なんですけど、認知症らしきおばあさんと、その人を見つめる、さだまさしの優しい視線が、すごく伝わってきます。

死を、前より身近に感じる年齢に近づいたからでしょうか？

多分・・・人生の折り返し地点は過ぎている年齢だと思うしなあ（笑）

自分の死を想い、大切な人の死を想うと、いつか、必ず訪れる、大切な人の死。

そして、いつか、必ず訪れる、自分の死。

死を感じる時、それは、人生は無限じゃないという、当たり前過ぎる事実を、しっかりと肌で感じられたとき。

今、やるべきことが見えてくるんでしょうね。

もしかしたら、人間の行動力って、死を想うことから生まれてくるのかも。

こんな言葉を思い出しました（笑）

ネイティブ・アメリカン(北米インディアン)である、タオス・プエブロの古老の言葉です。

「今日は死ぬのにもってこいの日」ナンシー・ウッド（著）

「今日は死ぬのにもってこいの日だ。

生きているものすべてが、私と呼吸を合わせている。

すべての声が、わたしの中で合唱している。

すべての美が、わたしの目の中で休もうとしてやって来た。

あらゆる悪い考えは、わたしから立ち去っていった。

今日は死ぬのにもってこいの日だ。

わたしの土地は、わたしを静かに取り巻いている。

わたしの畑は、もう耕されることはない。

わたしの家は、笑い声に満ちている。

子どもたちは、うちに帰ってきた。

そう、今日は死ぬのにもってこいの日だ。」

こんな安らぎと生命観が得られるならば、穏やかに生きも死にもできようって想いませんか？

そうであれば、生きるだけで、いいのかも（笑）

こんな本があります。

「生きてるだけで、いいんじゃない いのち・こども・あい・たび」 中島デコ（文）／エバレット・ブラウン（写真）

生きていれば良い事も、悪い事もいろいろあるけど、みんな含めて、楽しくやろうよ！

そんな元気を与えてくれる素敵な一冊です。

生きてるだけでまるもう～け～♪（爆）

どんなに今が辛くたって、どんなに今が痛くたって、生きてさえいれば、物語は続いていくから！

まあ、もう、遅いってことないと想うし、何度でもゼロからやり直せばいいじゃんねえ～（笑）

動きようもないなら、焦らないで、ただ、時間が経つのを待って、じっとしててもいいって思うんだけど、ね。

そうそう、生きながら生まれ変わることも有りですな。

生きてさえいれば、いつか、必ず、今の痛みを笑える日が来るから、心配しないでよ、みんな（笑）

最後に、「大人のための幸せレッスン 自分を幸せにする31の方法」志村季世恵（著）に載っていた、質問を皆さんに贈りたいと思います。

皆さんも自分が死ぬときのことを、ちょっとイメージしてみてください。

ひとり静かに安らかなときを迎え、不安や苦しみももう消えていて。

いろいろあったけれどいい人生をすごせたなって感じている。

そのとき、ひとりの子どもがあなたのそばに来て、「これから生きる私たちにとって、生きていくうえで一番大切なことは何ですか？」と尋ねたら・・・。

さてあなたはどんな＜ラストメッセージ＞をプレゼントするのでしょうか？

その答えが＜ラストメッセージ＞であり、それが、あなたにとっての人生の＜本当の目標＞なんだそうです（笑）

それでは、聴いてみてくださいね♪

「療養所（サナトリウム）」さだまさし

アルバム『夢供養』から「まほろば」

今日は、さだまさしの魅力が結実したかのような煌きを放つ代表傑作と言ってもいい、1979年発売のソロ4枚目のアルバム『夢供養』から「まほろば」をご紹介します（笑）

歌の舞台は奈良。

奈良の風景描写と『万葉集』（一部、『古今和歌集』）のモチーフを織り込みながら男女の心のすれ違いを描くかたちを借りて無常観を歌い上げた作品です。

今でもさだまさしのコンサートの定番となっている曲だそうです。

それにしても、よくもまあ、あれほど見事に曲に乗せれるものだと。

いすれにしろ、昨日は昨日であり、昨日したこと、言ったことは、取り消せません。

そして、いすれにしろ、明日は明日です。

明日しようと思うことが、かならず明日できるとは限らない。

明日言おうと思ったことが、明日かならず言えるか分からない。

再び戻る今日はなく、今日しなければならぬことは、今日を置いてほかにはないのでしょうか。

であれば、今日、言わなければならないことは、今日、言わなければならない。

それが厳然たるときの流れであり、そして、そのときの流れにそって、粛々と歩いていかなければならないのが人生、そして宿命なのでしょうか？

そうであったとしても、どう生きるのか？

それだけは、自分で考え、そして、自分で決めないと。

本当に大切なことは、人に相談しないほうがいいんじゃないかって気もします（笑）

それでは、聴いてみてくださいね♪

「まほろば」 さだまさし

アルバム『青春映画が好きだった』から「君はレースの途中のランナー」

今日は、人生の光と影を一貫して歌い続けるシンガー・ソングライター、馬場俊英の通算8枚目となるオリジナル・アルバム『青春映画が好きだった』から「君はレースの途中のランナー」をご紹介します（笑）

「数え切れない夢から覚めた世代の歌がない」と、彼はそう歌います。

誰もがトップランナーとして走り続けているわけじゃありません。

ときに立ち止まり、振り返り、そうやって辿り着いたところは、いつか夢見た未来とは少し違っているのかもしれない。

誰にも、どんな世代にも積み重ねてきた日々があります。

両手にいっぱい抱え込んでいた夢、煌めくような愛しい日々。

いつか現実に阻まれて、手放してしまったものも多いだろうと思います。

絶望に涙した日々もきっと多くの誰もが過ごしてきたのではないのでしょうか。

そうであれば、歩いてもいいんだよって思います。

一呼吸置く感じで、休んでももいいんだよって気もします。

夢のかたちは変わったのかもしれないけれど、ゴールに向かう足取りはゆっくりかもしれないけれど、私たちは、まだレースの途中のランナーなんだろうね（笑）

ひとりひとりがささやかに作る人生のドラマは、どんな結末を迎えるのかまだ誰も知らないのだから。

もしかしたら、夢の続きを見てもいいのかもしれないし、ね！

この歌は、ありふれた私の人生、それでもかけがえのない私の人生へ贈られる賛歌のように聞こえてくるようです。

そういえば、マックスウェル・マルツは、著書「幸福への挑戦」の中で『行動し、進むにつれ、

行動を正せ』と述べていました。

要は、フィードバックが大事だってことなのでしょう。

新たにやりたいことがあるのだけれど、始めようかどうしようかと迷ってしまうことがあるのではないのでしょうか。

考えてばかりで何もしないよりも、行動を開始したほうがいいし、立ち止まって考えるよりも、前進を続けながら考えたほうが多いと思います。

また、何も考えずに続けるよりも、軌道修正していったほうがいい場合もあり、やってみなければわからないことがありますよね。

いくら考えてもやってみなければわからないことがあります。

実際にやってみると・・・。

どういう感じがするか。

今の自分にはどのくらいできて、何ができないのか。

どこが難しいのか。

何が課題なのか。

自分に合っているか。

向いているか・・・。

先に進めば、遠くからは見えなかったゴールへの道が見つかるかもしれません。

やってみた結果をフィードバックし、今後活かしていければいいのではないのでしょうか。

立ち止まって考えていても何も始まらないので、始める決断はしなくても、「今できるだけ準備してみよう」と考えるのも良いと思います。

始めたいことに関する知識を得ることや、決断した後の計画やアイデアをふくらませてみればい

いのです。

本当にやりたいことだったら、準備をすればするほどやりたい気持ちが強くなり決断できるようになるかもしれないし。

いい経験をするつもりでと考えられるのなら、歩き始めることができるのではないのでしょうか。

知らない道には、新鮮な経験があり、それだけでも、いい経験になるはずです。

たとえ引き返すことになっても、いい経験と歩いた分の足腰の鍛錬には、なりますよね（笑）

将来、別の道を歩く時の力になると思います。

新しいことを始める際には、なかなか決断できないことが多々あると思います。

でも、立ち止まって考えていても何も始まらないし、未経験者の想像だけでは正しい判断材料にはならないのです。

始める決断に迷っていつまでもくよくよしているくらいなら、ダメなら引き返せばいいという覚悟でやりたいことを始めてみた方が、良い結果につながっていくことも多いように感じます。

だから、新しいことを始めようかどうしようか迷った時には、歩きながら考えるという方法もあることを思い出してみてください。

人生の中では、勇気を出して新しいことを始めたほうがいい時があると思います。

まだ、レースの途中なんだから、ね（笑）

それでは、聴いてみてくださいね♪

「君はレースの途中のランナー」馬場俊英

【 関連書籍 】

ニチジョウサハンジ 1 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/3285/read>

ニチジョウサハンジ 2 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/4119/read>

ニチジョウサハンジ 3 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/4120/read>

ニチジョウサハンジ 4 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/13007/read>

ニチジョウサハンジ 5 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/13307/read>

ニチジョウサハンジ 6 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/13327/read>

ニチジョウサハンジ 7 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/14330/read>

ニチジョウサハンジ 8 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/20345/read>

ニチジョウサハンジ 9 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/15613/read>

ニチジョウサハンジ 10 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/17226/read>

ニチジョウサハンジ 12 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/17700/read>

ニチジョウサハンジ 13 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/17701/read>

ニチジョウサハンジ 14 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/91968/read>

ニチジョウサハンジ 15 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/92689/read>

ニチジョウサハンジ 16 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/93027/read>

ニチジョウサハンジ 17 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/93031/read>

ニチジョウサハンジ 18 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/93090/read>

ニチジョウサハンジ 19 ～日常のあれこれを徒然なるままに～
<http://p.booklog.jp/book/96907/read>

ニチジョウサハンジ 1 1 ～日常のあれこれを徒然なるままに～

<http://p.booklog.jp/book/17666>

著者 : bax

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/trafalgar/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/17666>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/17666>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ